



各務原市資料調査報告書 第30号

平成17年度 企画展図録

平和への願い

各務原大空襲から60年!

伝えたい「戦争と人々のくらし」

桜を植えた郷土の歌舞伎役者

市川百十郎展

桜を植えた郷土の歌舞伎役者 市川百十郎展

【期間】平成18年1月26日(木)~2月5日(日)10時~16時
30日は休展

【場所】中央図書館3階展示ホール



百十郎は明治15年美原大島に生れ、北海道で育つれど以下の歌舞伎役者
になり、津川院に在り200年の縁組をいたしました。この道徳、「百十郎」は、
2歳、津川院に在り200年の縁組をいたしました。この道徳、「百十郎」は、
70年の年長と経て、また百十郎の市民の心に生き続けています。

同時開催
百十郎展 写真・動画・川柳展
百十郎柳屋堂写真シアター紹介
主催 各務原市



平和への願い 各務原大空襲から60年!

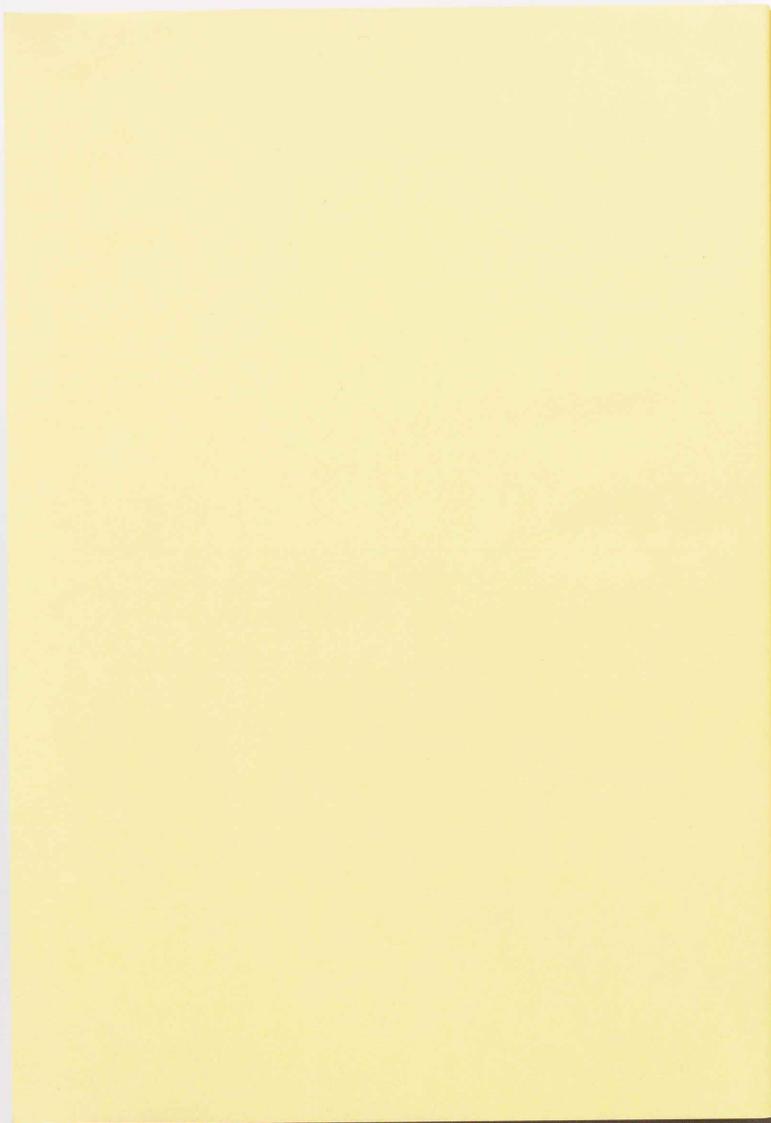
伝えたい「戦争と人々のくらし」

と き 平成17年 8月5日(金)~14日(日)
10時~16時 (9月1日(日)休展)

とこ 各務原市中央図書館3階展示ホール



- ◆資料特別の展示
空襲(爆撃)写真館、空襲被害者、空襲被害者、空襲被害者
- ◆特別企画展
空襲被害者、空襲被害者、空襲被害者
- ◆特別企画展
空襲被害者、空襲被害者、空襲被害者
- ◆特別企画展
空襲被害者、空襲被害者、空襲被害者



例 言

- 1 本書は、平成17年度に各務原市が主催した2つの企画展の記録写真集及び展示資料図録として刊行するものである。

戦時資料展

平和への願い

各務原大空襲から60年！

伝えたい「戦争と人々の暮らし」

平成17年8月5日(金)～8月14日(日)

市川百十郎展

桜を植えた郷土の歌舞伎役者

市川百十郎展

平成18年1月26日(木)～2月5日(日)

- 2 本書では、上記企画展で展示した主な資料を写真で掲載し、掲載できなかった資料は、展示資料一覧として紹介した。
- 3 本書に掲載した写真などの資料は、原則として原板・原資料の所蔵者を明記した。所蔵者を明記していないものは、各務原市歴史民俗資料館の所蔵である。
- 4 本書の執筆・編集は、各務原市歴史民俗資料館の大森利博・山内裕行・足立康治・藤吉勝彦・安田享郎・松岡初美・佐伯晴美が担当した。
- 5 企画展並びに、本書のためにご指導・ご協力を賜った関係者各位については、企画展協力者一覧として紹介し、深く感謝の意を表する。

目次

◇例言

◇目次

◇戦時資料展	1
1. 開催にあたって	2~3
2. 展示紹介	
① 私たちの町の大空襲	4
② 戦争への道	5
③ 戦時下の人々の暮らし	6
④ 戦後の混乱から復興へ	7
⑤ 戦争と平和について考える	8
⑥ 各務原市域に今も残る戦争のつめあと	9
⑦ 語り部コーナー	9
3. 図録	10~14
4. 展示資料一覧	15~25
5. 来館者の感想	26~29
◇市川百十郎展	30
1. 開催にあたって	31~33
2. 展示紹介	
① 百十郎を生んだ地芝居が盛んな各務原	34
② 弟子入りから修行、そして花形役者の百十郎	35
③ 全国を駆け巡る百十郎	36
④ 青年歌舞伎を盛り立てた百十郎	37
⑤ 舞台衣装・小道具関係	38
⑥ 桜を植えた百十郎	39
⑦ 話・体験コーナー	40
3. 図録	41~51
4. 展示資料一覧	52~57
5. 来館者の感想	58~61
◇企画展協力者一覧	62
◇編集後記	63

戦時資料展

平和への願い

各務原大空襲から60年!

伝えたい「戦争と人々の暮らし」

1. 開催にあたって
2. 展示紹介
3. 図録
4. 展示資料一覧
5. 来館者の感想

平和への願い

各務原大空襲から60年！

伝えたい「戦争と人々の暮らし」

1, 開催にあたって

詳細

- 主催 各務原市
- 趣旨 本年（平成17年）、アジア太平洋戦争が終わって60目となりました。この戦争では、人々は様々な苦難を強いられました。特に各務原市では、空襲の直撃を受け、多数の死傷者を出しました。
日本は終戦後平和を維持してきましたが、世界では、今なお戦争の悲劇が繰り返されている地域があります。一方、我が国では戦争を知らない世代が70%を超え、戦争の記憶の風化が確実に進んでいます。
そこで、この節目の年にちなみ、市民の皆様から寄せられた数多くの戦時資料、並びに新たに調査した資料を公開します。そして、悲惨な戦時体験を特に若い世代に伝え、戦争を二度と繰り返すことのない平和な社会を築くことを目的として、戦時資料展を開催します。
- 開催期間 平成17年8月5日（金）～8月14日（日） 10時～16時（8日は休館日）
- 開催場所 各務原市立中央図書館3階 展示ホール
- 展示内容
- ◆私たちの町の空襲
 - ◆戦争への道
 - ◆戦時下の人々の暮らし
 - ◆戦後の混乱から復興へ
 - ◆戦争と平和について考える
 - ◆各務原市域に今も残る戦争のつめあと
- 資料点数 530点余
- 特別
展示品
- ◆青い目の人形 3体
 - ◆風船爆弾の模型
 - ◆墨塗りの教科書



開場式テープカット



見学風景



絵手紙描きコーナー



当時の児童机に座る小学生

2, 展示紹介

① 私たちの町の大空襲

コーナー内容

- ◆壊滅した軍需工場
- ◆住民の被害状況
- ◆空襲に備える住民



風船爆弾 25分の1の模型
(岐阜市平和資料室所蔵)



B29の模型 (岐阜市平和資料室所蔵)

各務原の空襲は、昭和20年(1945)の4月～8月の終戦まで10数回を数えます。その中でも、各務原飛行場や軍需工場が大きな被害を受けたのが、6月22日・26日の2回の大空襲です。

各務原は飛行場や軍需工場があり、軍需基地の拠点となっていたため、岐阜県内でも大垣に次いで、いち早く爆撃を受けました。また、焼夷弾で焼け野原にされた岐阜市とは違って、大型の1トン爆弾などによる爆撃を受けました。



1トン爆弾・250kg爆弾の模型など

② 戦争への道

コーナー内容

- ◆忠君愛国の教育
- ◆農村から軍需工場の町へ
- ◆勤労奉仕等

昭和16年(1941)太平洋戦争が始まると、国民生活の全てにおいて戦争が第一に優先されました。児童の生活も例外ではなく、同年、小学校が少国民の練成を目的とする国民学校となり、教育は国策重視に利用されていきました。



昭和19年に新沼国民学校初等科5年生の児童が描いた作品が残されています(石井敏子氏所蔵)。「出征兵士の見送り」「勝利祈願」などすべてが戦意高揚の題材であり、子どもたちも「お国」のために動員されていたことが分かります。



その昔、かかみ野の一部は農村地帯でした。中央部の各務原台地で展開されていた「大砲場」が、大正6年(1917)6月、各務原飛行場として新たに開設され、航空第一・第二大隊が移駐してきてからは、航空機工業の軍需産業の町へと変わっていきました。陸軍航空本部補給部から航空廠、その後川崎航空機工業など飛行機関係の工場が進出し、最盛期には工員・学徒動労働員など多くの人々が働いていました。

③ 戦時下の人々の暮らし

コーナー内容

- ◆召集と軍隊
- ◆戦時下の住民生活
- ◆住民の娯楽
- ◆情報の統制

富国強兵の国策のもとで、日清・日露戦争に勝利した日本は、朝鮮半島及び南滿州地域における権益を強め、さらにアジア諸国をも支配下におこうと日中戦争、続いて太平洋戦争に突入していきました。

戦争のたびに、召集される若者が増え、多くの兵士が戦場へ向かいました。村に残された女性や子ども、老人は「ほしがりません 勝つまでは」「ぜいたくは敵だ」のローガンのもと、兵士を支え、お国のために懸命に働きました。

各務原でも、軍人援護団体せんじんえんごたいがいくつも発足し、婦人団体による活動も活発でした。明治34年(1901)に愛国婦人会あいこくふじんかいが発足、昭和7年(1932)には大日本国防婦人会おほにっぽんこくぼうふじんかいが組織され、白い刺繍着姿ししゅうぎさにたすきを掛けた婦人が国策のために積極的に協力していきました。

活動内容はいろいろで、国防婦人会の一員となると、那加駅や各務ヶ原駅まで出征兵士の歡送に出かけ、日の丸の小旗をちぎればかりにふって見送ったり、各務原陸軍病院や長森の六十八連隊の陸軍病院りくぐんびやういんに慰問ゐもんに出かけ、傷病兵を見舞ったりしました。また、金属の供出とともに、国防資材の献納運動も一つの活動でした。「愛国号」を献納した愛国婦人会のように、資金を調達して、飛行機・戦車・大砲を軍に献納する運動も盛んに行われました。



④ 戦後の混乱から復興へ

コーナー内容

- ◆進駐軍の基地、那加
- ◆民主教育の始まり
- ◆朝日地区の開拓事業

昭和20年(1945)8月14日、日本は連合国のポツダム宣言を受諾して無条件降伏に応じ、太平洋戦争は終わりました(同日15日玉音放送)。

各務原飛行場は接収されて、進駐軍の「キャンプ岐阜」となり、それまで敵であった米軍兵と「同居」する形で、各務原は戦後の復興事業に取りかかりました。したがって、市民の職業も風俗も進駐軍との関係が濃くなりました。

墨塗り教科書

終戦後、GHQ(連合軍総司令部)は、日本の学校教科書から軍事的内容・愛国心を強調する事項を消し去ることを命令しました。各学校では、昭和21年1月ごろ、教師の指示により、児童は自分の教科書の一部に墨を塗って消しました。



墨塗り前と墨塗り後の教科書(中村新三氏所蔵)

3, 図録 (左端の数字(3-40等)は、展示資料一覧の通番です。)



3-40. 写真「鹿児島県知覧の特攻隊一機生」



3-41. 寄せ書き(3-40の写真の鹿児島県知覧の特攻隊一機生が書いたもの)

命をすてて飛行機ごと米軍艦艇に体当たりする戦法をとったのが、神風特別攻撃隊(特攻隊)です。昭和19年(1944)10月のレイテ島沖海戦から行われ、若く優秀な飛行兵が南太平洋に散りました。

この写真の提供者の杉山さんが、戦地へ配属されていた時に特攻隊が作られました。「長男以外は、親に悲しい思いをさせたくなくなったら志願せよ。」と言われ、次男であった杉山さんは、特攻隊に志願しました。その後、隊長となったため、早くに飛び立つことはありませんでした。そして、昭和20年8月飛び立つ直前に終戦となり、一命をとりとめました。



1-40. 木札

表と裏に墨で「空襲警報中」「警戒警報中」と書かれています。

この資料についての詳細は不明ですが、川崎航空機工業株式会社岐阜工場で使用されていたものではないかという事です。



3-122. ポスター

桃太郎神社所蔵

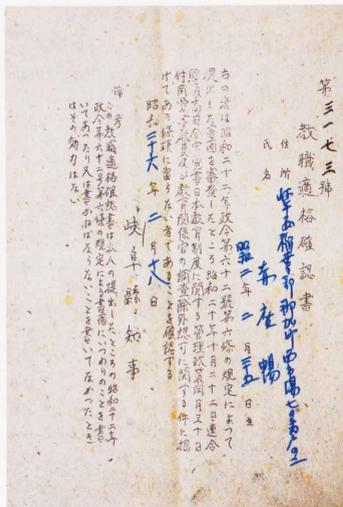
大東亜戦争2周年を記念して中部軍報道部が発行したものです。

日本は昭和16年(1941)12月8日、ハワイの真珠湾攻撃をもって、米英に宣戦布告しました。これが太平洋戦争(大東亜戦争)の始まりでした。

しかし、昭和17年6月にはすでにミッドウェー海戦に敗北し、戦局は不利でありながらも、大東亜戦争2周年を盛り立てました。

おとぎ話の「桃太郎」が鬼ヶ島へ猿や雉や犬をつれて鬼退治に行く物語を大東亜戦争に見立てています。

ルースベルトは赤鬼に、アメリカの潜水艦をクジラに、南の島々に見立てた宝船には、石油・ゴム・石炭・ダイヤモンドなどをかかえた七福神が乗っています。



4-35. 敬職適格確認書

昭和26年2月

軍政部は、昭和20年（1945）10月、教育制度から軍国主義的・超国家主義的要素を排除することに着手し、全教員・教育関係者の適格性について審査を命じました。

昭和27年4月の講話条約の発効とともに、この制度はなくなりました。

「青い目の人形」

昭和2年（1927）ころ、日本は昭和恐慌のどん底で、企業の倒産・農作物の暴落などにより生活苦から娘の身売りなどが行われていました。アメリカでも不況の中で日系移民に対する排斥が強まってきました。日本に住んでいたこともあるアメリカ人のギューリック氏は、お互いの文化を交流することで子どもたちに平和の心を育てようと考え、1万2千体余の青い目の人形を日本に贈りました。その内、岐阜県には235体が贈られています。思いがけないプレゼントは、子どもたちだけでなく、多くの人々に感動を与えました。

しかし、その14年後の昭和16年12月8日、日本はアメリカと戦争を始め、敵国となってしまいました。その後、人形も、もちろん人々も悲しい運命をたどることになりました。



5-1. 青い目の人形 メリーブランナー

榎橋充子氏所蔵

上麻生小学校のメリーブランナーがどのようにして残されたのかよく分かっていません。人形が裁縫室にあったという証言もあります。昭和38年（1963）夏、その人形がすてられようとしている時、小学生だった榎橋充子さんが偶然もらい受け、お母さんが帽子を編み、新しい服を着せました。「古ぼけてしまっても、この人形は何か訴えてくるものがあるんです。私を捨てないでと寂しそうに見つめているようです」と榎橋さんは語ります。それ以来、結婚した今も手元に置いて大切に保存されています。

5-2. 青い目の人形 バッター

八百津町立和知小学校所蔵

和知小学校に「青い目の人形」バッテリーがやってきたのは昭和2年（1927）4月16日。学校長が人形の由来を話し、いつまでも友情を忘れないでくださいと全校児童に諭しました。ところがアメリカとの戦争に突入すると、バッテリーの身にも危険が迫ってきました。「バッテリーはスパイじゃない。人形に何の罪があろう」と、バッテリーを理科室の岩石標本棚の下に入れて釘を打ちつけてしまいました。お陰でバッテリーは今に伝えられているのです。

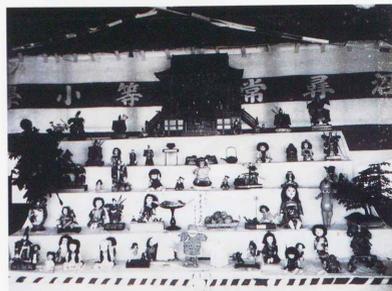


5-3. 青い目の人形 ダイアン

八百津町立和知小学校所蔵

平成7年（1995）5月、アメリカのギューリック氏の孫、ギューリック3世により和知小学校に贈られた新しい「青い目の人形ダイアン」です。





79年前（平成17年現在）の昭和2年（1927）、日米間の“平和と友好の使者”としてアメリカのキューリック氏によって贈られた「青い目の人形」の写真が、鶴沼尋常高等小学校（現・鶴沼第一小学校）のアルバムから見つかりました。

残念ながら、「青い目の人形」自体はありませんが、この写真は当時を知る貴重な資料となりました。

この他にも、各務原では4校に贈られました。那加尋常高等小学校（現・那加第一小学校）、前宮尋常高等小学校（現・稲羽東小学校）、敬徳尋常高等小学校（現・稲羽西小学校）、蘇原尋常高等小学校（現・蘇原第一小学校）に贈られた記録が残っています。

5-5. 写真 「歓迎式典」

鶴沼第一小学校所蔵

「青い目の人形 ライエン」を迎える歓迎式典を鶴沼尋常高等小学校で行っている場面です。



5-4. 写真
「青い目の人形 ライエン」
鶴沼第一小学校所蔵



「この御方はライエンさんです
あります」と書かれています

4, 展示資料一覧

① 私たちの町の空襲

番号	年 月	資 料 名	備 考
1-1	岐阜 3都市(各務原・岐阜・大垣)への空襲の比較		岐阜市平和資料室所蔵
1-2	1トン爆弾と焼夷弾の攻撃 一岐阜県内への空襲一		岐阜市平和資料室所蔵
1-3	昭和54年 写真 「振り出された250kg爆弾」	2点	
1-4	昭和20年6月 写真 「破壊した爆撃機」		
1-5	昭和20年6月 写真 「壊滅した川崎航空機の組立工場」		
1-6	組写真 ナガサキ・ヒロシマ	16点	岩井弘光氏所蔵
1-7	1トン爆弾模型・説明板		長径0.6m、長さ2.4m、重さ約8kg
1-8	250kg爆弾模型・説明板		長径0.36m、長さ約1.5m、重さ約4kg
1-9	100ポンド焼夷弾・説明板		岐阜市平和資料室所蔵
1-10	B29の模型		岐阜市平和資料室所蔵
1-11	模型の関連説明資料(米軍B29が投下した爆弾の威力)		
1-12	模型の関連説明資料(爆撃機の進入路図)		昭和19年11月~20年8月
1-13	模型の関連説明資料(B29と日本の戦闘機とのシルエット比較)		
1-14	模型の関連説明資料(B29爆撃機の焼灼 速度は1分間に7km強とする)		
1-15	昭和20年6月 写真 「那加新境川東に破裂した大型爆弾」		
1-16	昭和20年6月 写真 「大型爆弾の直撃を受けた川崎航空機本館ビル」		
1-17	各務原・岐阜県下の主な空襲		
1-18	東海軍情報放送要図		岐阜市平和資料室所蔵
1-19	伝単 「日本国民に告ぐ」(米軍がばらまいたもの)		岩井弘光氏所蔵
1-20	溶けたガラス・鉄片等・説明		岐阜市平和資料室所蔵
1-21	昭和23年3月27日撮影 航空写真 「各務原中飛行場付近」		
1-22	写真 「各務原飛行場の模型」(米軍が作製した訓練用模型)		
1-23	風船爆弾 25分の1の模型		岐阜市平和資料室所蔵
1-24	気球紙原紙		岐阜市平和資料室所蔵
1-25	写真 「風船気球の性能テスト(満球テスト)をする高女たち」		岩井弘光氏所蔵
1-26	模型の関連説明資料(風船爆弾とは)		岐阜市平和資料室所蔵
1-27	模型の関連説明資料(風船爆弾の構造 風船の部分)		岐阜市平和資料室所蔵
1-28	模型の関連説明資料(岐阜と風船爆弾の生産)		岐阜市平和資料室所蔵
1-29	模型の関連説明資料(風船爆弾の発射)		岐阜市平和資料室所蔵
1-30	模型の関連説明資料(そして平和に)		岐阜市平和資料室所蔵
1-31	昭和20年2月18日 中部日本新聞 「風船爆弾の報道新聞コピー」		岐阜市平和資料室所蔵
1-32	防空頭巾		
1-33	モンペ		

通番	年 月	資 料 名	備 考
1-34		火たたき棒	
1-35	昭和17年頃	写真 「広場での特訓の訓練」	
1-36	昭和15年頃	写真 「那加婦人会のバケツリレーによる消火訓練」	広瀬彰久氏所蔵
1-37	昭和18年	写真 「警防団の指導による婦人会の消防訓練 前宮村」	
1-38	昭和17年頃	写真 「養成所実習室でのヤスリ作業の授業」	
1-39	昭和19年6月～20年5月	各務原警戒・空襲警報発令実施表	
1-40		木札(警戒警報中・空襲警報中)	裏表に墨書き
1-41	昭和20年6月23日	中部日本新聞 「2日目の各務原空襲を報ずる記事」	
1-42	昭和20年6月27日	中部日本新聞 「26日の各務原空襲を報ずる記事」	
1-43		応急手当法(防空救護所・救急資料)	岐阜市平和資料室所蔵 (岐阜県警防隊発行)
1-44	昭和20年6月26日	蘇原国民学校日誌の1ページ	
1-45	昭和19年頃	写真 「防空壕を掘る富田高女の生徒たち」	富田高等学校所蔵
1-46		写真 「鶴沼羽場町の竹藪に現存する地下式防空壕」	
1-47		イラスト 「防空壕にひそむ住民」	
1-48	昭和20年6月22日	柱に刺さった爆弾の破片(1トン爆弾の破片)	岩井弘光氏所蔵
1-49		柱に刺さった爆弾の破片	今尾良三氏所蔵
1-50		M69型焼夷弾の筒 2点	
1-51	昭和20年6月22日のもの	米軍投下の爆弾の破片(1トン爆弾の破片) 2点	
1-52	昭和20年6月22日・26日のもの	米軍投下の爆弾の破片	
1-53		爆弾の破片 6点	
1-54		機関銃弾	
1-55	昭和19年	書籍 敵機一覧	岩井弘光氏所蔵
1-56	昭和18年	書籍 時局防空必携	岩井弘光氏所蔵 (内務省・岐阜県警防隊発行)
1-57		防空用無灯カバー	

② 戦争への道

通番	年 月	資 料 名	備 考
2-1		八絃一字(観)	
2-2	昭和9年	写真 「奉安殿の竣工式」(蘇原尋常高等小学校)	浅野静子氏所蔵
2-3	昭和9年12月	写真 「奉安殿」(蘇原尋常高等小学校)	蘇原第一小学校所蔵
2-4	昭和8年頃	写真 「運動会での白虎隊の演技」(鶴沼尋常高等小学校)	鶴沼第一小学校所蔵
2-5	昭和15年2月29日	岐阜日報 「国民学校の新聞記事」	
2-6	昭和19年頃	鶴沼国民学校初等科5年生の作品 絵 22点	石井敏子氏所蔵
2-7	昭和19年	写真 「どんぐり搬出105俵」(前宮国民学校)	鶴沼東小学校所蔵
2-8	昭和19年	写真 「どんぐり105俵の運搬」(前宮国民学校)	鶴沼東小学校所蔵
2-9	昭和19年頃	鶴沼国民学校初等科5年生の作品 習字	

通番	年 月	資 料 名	備 考
2-10	昭和18年頃	鶴沼国民学校高等科2年生の作品 習字	
2-11		二宮金次郎像(木像)	鶴沼西小学校所蔵
2-12		写真 「二宮金次郎像の前の児童」	浅野静子氏所蔵
2-13		児童の机・椅子	
2-14	明治18年5月	大砲場掃除役御願	
2-15	大正8年頃	写真 「フランスの戦闘機を整備するフランス航空兵」	
2-16	大正8年頃	写真 「フランス航空教育団の一行」	
2-17	大正6年頃	写真 「小山の渡船場でのさつまいも船積み」	伊藤太郎氏所蔵
2-18	昭和5年	写真 「鶴沼各務原のさつまいも畑を走る各務原鉄道の電車」	広瀬仙一氏所蔵
2-19	昭和5年頃	写真 「一連隊全票と飛行場」(三井山より)	自衛隊所蔵
2-20	昭和6年頃	写真 「甲式三型戦闘機と見学者」	自衛隊所蔵
2-21	昭和12年	写真 「一連隊正門を出発する兵士」	杉山春雄氏所蔵
2-22	昭和4年	鉄道地図 「東鶴沼～長住町(岐阜)」	
2-23	昭和12年頃	写真 「陸あげされる飛行機」	
2-24	昭和12年頃	写真 「飛行第二連隊正門」	
2-25	昭和16年頃	写真 「家族で養蚕」 2点	
2-26	昭和18年頃	写真 「養蚕組合の推進共同朝會」	
2-27		蚕のまゆ	
2-28		写真 「航空廠技能者養成所兵舎」	(昭和15年完成) 佐藤政重氏所蔵
2-29	昭和17年	写真 「航空支隊で発動機の整備をする工具」	佐藤政重氏所蔵
2-30	昭和17年	写真 「格納庫での機体調整作業(航空支隊)」	佐藤政重氏所蔵
2-31	昭和17年	写真 「航空支隊の飛行機の整備」	佐藤政重氏所蔵
2-32	昭和17年	写真 「神風号(キ-15)の整備(航空支隊)」	佐藤政重氏所蔵
2-33		写真 「特幹各務原戦友会 (航空整備学校)」	
2-34		新聞記事 「戦友再会、不戦の誓い」	
2-35		写真 「三式戦闘機「飛燕」(キ-61)」	
2-36		表 川崎岐阜工場の生産実績(昭和12～20年)	
2-37		表 各務原飛行場の年表(明治9年～昭和20年)	
2-38	昭和19年頃	三菱航空機の戦意高揚ポスター	岩井弘光氏所蔵
2-39		写真 「愛国婦人会が収納した愛国54号」	
2-40		飛行場の変遷(明治12～14年当時の各務原)	
2-41		飛行場の変遷(昭和5年当時の各務原飛行場・工場と民家)	
2-42		飛行場の変遷(昭和18～20年頃の陸軍各務原飛行場)	
2-43		飛行場の変遷(各務原軍事施設配置位置図)	
2-44		航空廠扉章 6点	
2-45	昭和13年4月	陸軍航空支隊 工具手帳	
2-46		航空廠で使われていた航空機整備の工具	
2-47	昭和13年12月	前後傾斜計二型	九五式一型傾斜計(キ9)に 取り付けてあったもの

通番	年 月	資 料 名	備 考
2-48	昭和14年1月	陸軍航空支隊見習工員志願者心得	
2-49	昭和14年4月	甲種見習工員修了証(各務原陸軍航空支隊)	
2-50	昭和16年3月	陸軍航空廠各務原支隊甲種見習工学科修了証	
2-51		児童服 (上下)	
2-52	昭和18年	写真 「陸軍病院の慰問」	
2-53	昭和19年	写真 「全校庭がさつまいも畑に」(前宮国民学校)	福羽東小学校所蔵
2-54		ビデオコーナー 「戦火に消えた21の学園」(ひめゆり平和記念資料館)	所蔵氏所蔵
2-55		ビデオコーナー 「ひまわり」	
2-56		写真 「ひめゆり学徒隊の歩み」	所蔵氏所蔵
2-57		体操会の玉入れ(チャールとルーズベルト)	
2-58	昭和17年頃	行軍の小国民(国民学校の夏服)	岩井弘光氏所蔵
2-59	昭和15年	国民帽	岩井弘光氏所蔵
2-60		唐草模様風呂敷き	
2-61	昭和18年頃	写真 「富田高女のなぎなたの授業」	富田高等学校所蔵
2-62		写真 「川崎航空機で働く富田高女の生徒」	
2-63	昭和17年頃	写真 「広場で銃剣道の授業」	
2-64	昭和15年頃	写真 「六八連隊を見学する岐高女生徒」	坂井弘子氏所蔵
2-65	昭和18年頃	写真 「韓国農場で働く富田高女の生徒」	富田高等学校所蔵
2-66	昭和19年	写真 「学徒勤労勲章」	
2-67	昭和19年頃	写真 「岐中生徒の防空演習」	
2-68	昭和15年頃	写真 「各務原青年学校生徒のうさぎ狩り」	伊藤昇氏所蔵
2-69	明治23年10月	教育勅語(更木尋常高等小学校)	
2-70	昭和6年	高等小学校修身書 巻二 女生用	
2-71	昭和15年	高等小學校修身科 巻二 児童用	
2-72	昭和16年	こどものしつけ	
2-73	昭和18年	初等科算数 八	
2-74	昭和18年	初等科工作 三 女子用	
2-75	昭和18年	初等科算数 七	
2-76	昭和19年	カズノホン 1	
2-77	昭和19年	高等科習字 一 女子	
2-78	昭和19年	高等科国語 二	

③ 戦時下の人々のくらし

通番	年 月	資 料 名	備 考
3-1		大東亜戦争放送ニュース聴取用地図	岐阜市平和資料館所蔵
3-2		入営幟	

通番	年 月	資 料 名	備 考
3-3		国民兵召集令状(赤紙)	岐阜市歴史博物館所蔵
3-4	昭和18年3月発行	写真 「徴兵検査」(各務原陸軍航空技能者養成所)	長崎京二氏所蔵
3-5	昭和12年7月	写真 「那加駅で出征兵士を送る人々」	杉山春雄氏所蔵
3-6	昭和16年8月25日	イラスト 「陸軍戦車」	
3-7	昭和9年3月10日	写真 「戦車隊」	
3-8	昭和18年頃	写真 「入隊記念」	
3-9		陸軍 軍服上下	
3-10		軍帽	
3-11		千人針体験コーナー	
3-12	昭和17年4月17日	イラスト 「海軍軍艦」	
3-13	昭和20年5月	写真 「魚雷艇乗組員(海軍特攻隊員)」	
3-14		大東亜共栄圏 太平洋要図	岐阜市平和資料館所蔵
3-15		飯ごう(陸軍武官用)	
3-16		銃剣	
3-17		慰問袋	
3-18		兵隊タオル	
3-19		飯ごう	
3-20		鉄かぶと	
3-21		除隊記念 盃	
3-22		除隊記念 徳利	
3-23		除隊記念 盆	
3-24		軍隊食器	
3-25		帝国在郷軍人会正会員帳	
3-26		手榴弾	
3-27		手榴弾入れ	
3-28		水筒	
3-29		脚はん	
3-30		歩兵携帯用円匙	
3-31		雑のう	
3-32		軍靴	
3-33	昭和19年	海軍兵長冬服(水兵服・冬服・上のみ)	
3-34		空軍飛行服	
3-35		航空帽	岩井弘光氏所蔵
3-36		写真 「猛威をふるった零戦が撃墜」	
3-37	昭和19年7月31日	写真 「航空隊の戦闘機による空中戦」	
3-38	昭和17年12月23日	写真 「女学生から贈られたマスコットに喜ぶ兵士」	
3-39	昭和19年7月31日	写真 「出撃する兵士」	
3-40		写真 「特攻隊第一期生」(鹿児島県知覧特攻基地)	(昭和18年10月入隊)

通番	年 月	資 料 名	備 考
3-41		寄せ書き(知寛の特攻隊第一期生)	(昭和18年10月入隊)
3-42	昭和18年10月	遺言状(妻・子)	
3-43	昭和23年4月	死亡告知書	
3-44		国民服(男) 上下	
3-45	昭和16年12月8日	宣戦新聞記事(白黒)	
3-46		パールハーバー攻撃	
3-47		日章旗(折武運長久)	
3-48		千人針(折武運長久)	
3-49	昭和19年1月	千人針(虎)	
3-50	昭和20年6月	特攻隊員19名の辞世の句(木五中隊史)	日野原敬氏所蔵
3-51		軍事郵便「戦地の兄から」	
3-52		陸軍一等兵(服装イラスト)	
3-53		少尉の野戦軍衣(服装イラスト)	
3-54	昭和12年9月	写真「中屋村の村舞」	
3-55	昭和12年12月17日	写真「村舞に向かう人」(前宮村)	足立誠司氏所蔵
3-56		写真「箱膳による食事」(再現)	
3-57	昭和18年頃	写真「家族の服装」	赤地寿氏所蔵
3-58		写真「お母さんは散髪屋さんも」	岐阜新聞社所蔵
3-59		キンダーブック	
3-60	昭和7年1月1日	写真「井戸端の子どもたち」	奥村文夫氏所蔵
3-61	昭和3～4年	写真「放事する女性」	
3-62		写真「かまど」	
3-63	昭和17年9月28日	写真「相撲」(蘇原国民学校の土俵祭)	浅野静子氏所蔵
3-64	昭和18年	空襲時の食糧	
3-65	昭和21年	写真「守り」	
3-66		写真「農作業の婦人」	
3-67		イラスト「大根をかじる子供」	
3-68	昭和12年ころ	写真「新割りヒ家族」	浅野静子氏所蔵
3-69	昭和19年	写真「運動場で日干す供出の染皮」	福羽軍小学校所蔵
3-70	昭和17年頃	写真「蘇原寺島区の砂防工事の奉仕作業」	
3-71	昭和18年	写真「鶴沼駅から筑鐘」	安空寺所蔵
3-72	昭和18年	写真「前宮村国防婦人会 たき出し」	
3-73		モンペ	
3-74		たすき(愛国婦人会各務村分会)	
3-75		たすき(大日本国防婦人会)	
3-76		ポンプ	
3-77		柱時計	
3-78		箱膳・茶碗入り2組	

通番	年 月	資 料 名	備 考
3-79		弁当箱(アルマイト)	
3-80		かま	
3-81		たらい	
3-82		洗濯板	
3-83		コンロ	
3-84		鍋	
3-85		洗面おけ(はんそう)	
3-86		手桶・ひしゃく	
3-87		一升びん・米つき(棒つき)	
3-88		貯金箱(国家教育 金城貯金箱)	
3-89		キセル一式	
3-90		陶製ボタン	
3-91		陶器湯たんぽ	
3-92		やかん	
3-93	昭和16年頃	隣組歌詞入り 湯飲み茶碗	
3-94		配給切符	
3-95		戦時国債	
3-96		古銭	
3-97		中屋村下中屋班の女子青年団の旗	
3-98	昭和17年11月	写真「勤労報国隊」(稲葉郡賛賛会社年団)	
3-99	昭和18年	写真「勤労奉仕」(前宮村民)	
3-100	昭和16年3月	写真「那加青年団の食糧増産のための肥料用灰集め」	浅野一氏所蔵
3-101		慰問袋のしおり(表)	岩井弘光氏所蔵
3-102	昭和13年11月	写真「蘇原青年団のうさぎの皮はぎ講習会」	小川勘蔵氏所蔵
3-103		銃後奉公の誓い	北朝自治会所蔵
3-104		皇軍慰問はがき	岩井弘光氏所蔵
3-105	昭和6年2月	写真「第一回稲葉郡処女会幹部講習会」	
3-106		銃後後援強化週間標語絵はがき	
3-107	昭和初期	写真「鶴沼宝積寺処女会の皇軍武運長久祈願」	
3-108		羽島郡中屋村女子青年団団旗	福羽軍小学校所蔵
3-109		ポスター「タマもタンクも貯金から」	北朝自治会所蔵
3-110	昭和15年10月奉納	紀元二千六百年祭絵馬	手力雄神氏所蔵
3-111	昭和15年10月	写真「前宮小 紀元二千六百年祭」	福羽東小学校所蔵
3-112		扇子(皇紀二千六百年第三回出資充実計画完成記念)	
3-113	昭和初期	写真「村国産 絵本太功記の舞台」	宇野久子氏所蔵
3-114	昭和初期	写真「那加劇場の演員の観客」	今尾定男氏所蔵
3-115	昭和初期	興行広告(市川五十郎) 2点	
3-116	昭和初期	浪花悲歌(山田五十鈴)	羽島市映画資料館所蔵

通番	年 月	資 料 名	備 考
3-117	昭和初期	唄祭り三度笠 大河内伝次郎	羽島市映画資料館所蔵
3-118	昭和初期	チンドン屋	羽島市映画資料館所蔵
3-119	昭和初期	映画ポスター	羽島市映画資料館所蔵
3-120	昭和初期	神州天馬伎	羽島市映画資料館所蔵
3-121		夏休みのある一日	
3-122		♯19 「大東亜戦争第二周年12月8日 征け桃太郎・米英を撃て」	桃太郎神社所蔵
3-123		のらくろ漫画	田中稔氏所蔵
3-124		イラスト 「馬とび」	
3-125		蓄音機	
3-126		レコード	
3-127	昭和13年	愛国軍歌集	
3-128		アコーデオン	
3-129		ラジオ	
3-130		缶ぽっくり	
3-131		めんこ	
3-132		羽子板	
3-133		和風	
3-134		コマ	
3-135		竹鉄砲	
3-136	昭和17年頃	写真 「紙芝居による宣伝」	
3-137	昭和16年7月	紙芝居 兄さんの手紙	
3-138	昭和17年10月	紙芝居 マレー沖海戦	
3-139	昭和18年頃	翼賛びんせん	岩井弘光氏所蔵
3-140	昭和16年頃	スパイ用心マッチ	岩井弘光氏所蔵

④ 戦後の混乱から復興へ

通番	年 月	資 料 名	備 考
4-1	昭和20年終戦直後	日誌(蘇原国民学校)	
4-2	昭和19年2月28日	JAPANESE PHRASE BOOK(英和辞典)	今尾良三氏所蔵
4-3	昭和20年10月	改文電報受付用英語会話集	今尾良三氏所蔵
4-4	昭和20年	外国軍隊進駐地域住民に対する回覧板	
4-5	昭和20年10月6日	連合軍隊進駐に対する勤労奉仕出勤	
4-6	昭和20年11月30日	連合軍より重大指令伝達に関する件	
4-7		写真 「中屋の忠魂碑」	奥村昭成氏所蔵
4-8		写真 「移転した忠魂碑の石灯笼」(松本町)	
4-9		写真 「現在の慰霊碑」(中屋)	

通番	年 月	資 料 名	備 考
4-10	昭和21年10月	写真 「戦後再建の激励の為に巡幸した昭和天皇」	フジタスタジオ所蔵
4-11		写真 「進駐軍のジープや連合国軍軍用車を珍しそに眺める子供たち」	岐阜新聞社所蔵
4-12	昭和30年12月	写真 「キャンプ岐阜 連隊本部前」	岩谷博氏所蔵
4-13	昭和28年12月	写真 「鶴沼町の文化祭に披露された米軍ヘリコプター」	鶴沼第一小学校所蔵
4-14	昭和29年5月	写真 「米軍ヘリコプターを見学する児童」	岐阜新聞社所蔵
4-15	昭和33年	写真 「基地撤去直前のゲート付近」	岐阜新聞社所蔵
4-16	昭和30年	写真 「PX内部の様子」	元駐米軍基地の資料館所蔵
4-17		写真 「キャンプ岐阜内のPX近辺 米兵と日本人青年」	浅野由郎氏所蔵
4-18		写真 「キャンプ岐阜内のPX近辺 ジープに乗った日本人青年」	浅野由郎氏所蔵
4-19		写真 「キャンプ岐阜内のPX近辺 日本人青年」	浅野由郎氏所蔵
4-20	昭和30年	写真 「キャンプ岐阜内のそろばん教室」	岐阜新聞社所蔵
4-21		写真 「戦後米軍兵士が撮影した川崎岐阜工場」	岐阜県歴史資料館所蔵
4-22		写真 「バスボディの生産に入った川崎」	川崎重工業所蔵
4-23		トランク(進駐軍兵士から譲り受けたもの)	奥村昭成氏所蔵
4-24	昭和23年	水筒(進駐軍兵士から譲り受けたもの)	岩井弘光氏所蔵
4-25	昭和28年9月	写真 「キャンプ岐阜周辺 米軍兵士と日本人女性」	岐阜新聞社所蔵
4-26		歓楽街の女性に売られていた装飾品	
4-27	昭和25年10月	写真 「民主教育の一環として行われた子ども銀行」(鶴沼第一小学校)	
4-28	昭和25年10月	写真 「那加中学校校舎落成式」	
4-29	昭和29年	写真 「各務中学校」(旧各務村の中学校)	深澤憲爾氏所蔵
4-30	昭和25年	写真 「男女手を取りあつたのフォークダンス」(鶴沼第一小学校)	
4-31	昭和27年	写真 「蘇原中学校の運動会」	蘇原中学校所蔵
4-32	昭和26年	写真 「稲葉郡中学校球技大会の入場行進」(那加中学校)	那加中学校所蔵
4-33	昭和27年	那加中学校卒業アルバム	今尾良三氏所蔵
4-34	昭和26年	共和中学校卒業アルバム	奥村昭成氏所蔵
4-35	昭和26年2月18日	教職資格確認書	
4-36		解説 墨塗り教科書	中村新三氏所蔵
4-37	昭和16年3月31日	よみかた三 (国民学校初等科2年生)	中村新三氏所蔵
4-38	昭和16年3月31日	よみかた三 (墨塗り教科書) (国民学校初等科2年生)	中村新三氏所蔵
4-39	昭和17年7月20日	よみかた四 (国民学校初等科2年生)	中村新三氏所蔵
4-40	昭和17年7月20日	よみかた四 (墨塗り教科書) (国民学校初等科2年生)	中村新三氏所蔵
4-41	昭和18年3月23日	初等科算数七 (国民学校初等科6年生)	中村新三氏所蔵
4-42	昭和18年3月23日	初等科算数七 (墨塗り教科書) (国民学校初等科6年生)	中村新三氏所蔵
4-43	昭和18年11月30日	初等科算数八 (国民学校初等科6年生)	中村新三氏所蔵
4-44	昭和18年11月30日	初等科算数八 (墨塗り教科書) (国民学校初等科6年生)	中村新三氏所蔵
4-45	昭和18年12月5日	初等科理科三 (国民学校初等科4年生)	中村新三氏所蔵
4-46	昭和18年12月5日	初等科理科三 (墨塗り教科書) (国民学校初等科4年生)	中村新三氏所蔵
4-47	昭和16年11月7日	エノホンニ 教師用 (国民学校初等科1年生)	中村新三氏所蔵

通番	年 月	資 料 名	備 考
4-48	昭和16年11月7日	エノホンニ 教師用 (墨塗り教科書) (国民学校初等科1年生)	中村新三氏所蔵
4-49	昭和17年2月19日	初等科図画一 (国民学校初等科3年生)	中村新三氏所蔵
4-50	昭和17年2月19日	初等科図画一 (墨塗り教科書) (国民学校初等科3年生)	中村新三氏所蔵
4-51	昭和17年2月17日	初等科図画二 男子用 (国民学校初等科4年生)	中村新三氏所蔵
4-52	昭和17年2月17日	初等科図画二 男子用 (墨塗り教科書) (国民学校初等科4年生)	中村新三氏所蔵
4-53	昭和18年2月27日	初等科工作四 女子用 (国民学校初等科6年生女子)	中村新三氏所蔵
4-54	昭和18年2月27日	初等科工作四 女子用 (墨塗り教科書) (国民学校初等科6年生女子)	中村新三氏所蔵
4-55	昭和17年3月14日	初等科工作二 男子用 (国民学校初等科4年生男子)	中村新三氏所蔵
4-56	昭和17年3月14日	初等科工作二 男子用 (墨塗り教科書) (国民学校初等科4年生男子)	中村新三氏所蔵
4-57	昭和18年11月23日	初等科音楽二 (国民学校初等科4年生)	中村新三氏所蔵
4-58	昭和18年11月23日	初等科音楽二 (墨塗り教科書) (国民学校初等科4年生)	中村新三氏所蔵
4-59	昭和17年11月30日	初等科裁縫上 (国民学校初等科4年生)	中村新三氏所蔵
4-60	昭和17年11月30日	初等科裁縫上 (墨塗り教科書) (国民学校初等科4年生)	中村新三氏所蔵
4-61	昭和19年5月12日	高等科国語一 (国民学校高等科1年生)	中村新三氏所蔵
4-62	昭和19年5月12日	高等科国語一 (墨塗り教科書) (国民学校高等科1年生)	中村新三氏所蔵
4-63	昭和19年9月9日	高等科国語二 (国民学校高等科1年生)	中村新三氏所蔵
4-64	昭和19年9月9日	高等科国語二 (墨塗り教科書) (国民学校高等科1年生)	中村新三氏所蔵
4-65	昭和19年8月21日	高等科国史上 (国民学校高等科1年生)	中村新三氏所蔵
4-66	昭和19年8月21日	高等科国史上 (墨塗り教科書) (国民学校高等科1年生)	中村新三氏所蔵
4-67	昭和19年7月3日	高等科国画一 男子用 (国民学校高等科1年生)	中村新三氏所蔵
4-68	昭和19年7月3日	高等科国画一 男子用 (墨塗り教科書) (国民学校高等科1年生)	中村新三氏所蔵
4-69	昭和19年1月20日	中等国文一 (旧制中学校)	中村新三氏所蔵
4-70	昭和19年1月20日	中等国文一 (墨塗り教科書) (旧制中学校)	中村新三氏所蔵
4-71		責任感旺盛賞状	今尾良彦氏所蔵
4-72		校長任命状	今尾良彦氏所蔵
4-73		卒業証書	今尾良彦氏所蔵
4-74	昭和34年	写真「灌漑工事」(鶴沼朝日地区)	陵南小学校所蔵
4-75	昭和30年	写真「開拓園のさつまいもでんぷん工場」(鶴沼朝日地区)	陵南小学校所蔵
4-76	昭和27年	写真「朝日開拓園で行われた運動会」	陵南小学校所蔵

⑤ 戦争と平和について考える

通番	年 月	資 料 名	備 考
5-1		青い目の人形 メリプランナー	櫻橋充子氏所蔵
5-2		青い目の人形 パッロー	八百津町立和知小学校所蔵
5-3		青い目の人形 ダイアン	八百津町立和知小学校所蔵
5-4	昭和2年	写真「鶴沼尋常高等小学校に贈られた青い目の人形 ライエン」	鶴沼第一小学校所蔵

通番	年 月	資 料 名	備 考
5-5	昭和2年	写真「青い目の人形の歓迎式典を行う鶴沼尋常高等小学校」	鶴沼第一小学校所蔵
5-6		詩「悼」	山下敦恵子 作
5-7		詩「平和な今」	沖橋良与野原東小学校6年 上原 蓮 作
5-8		ひめゆり バンフレット紹介	所蔵氏所蔵
5-9		写真「平和記念モニュメント」	
5-10		市民による平和を贈る絵手紙	
5-11		各務原と日本の戦時年表	
5-12		組写真 ヒロシマ・ナガサキ 5点	
5-13		組写真 オキナフ(那覇出版社) 3点	所蔵氏所蔵
5-14		沖橋戦の手記	所蔵氏所蔵
5-15		戦争に関する図書14点、紙芝居4点	
5-16		来場者による千羽鶴	

⑥ 各務原市域に今も残る戦争のつめあと

通番	年 月	資 料 名	備 考
6-1		写真「空襲で焼けたキササゲ」	那加門前町
6-2		写真「手作りの空襲記念碑」	那加本町
6-3		写真「爆撃で欠けた灯笼」	蘇原奥重町
6-4		写真「弾痕が残る航空廠のコンクリート扉」	蘇原三柿野町
6-5		写真「防空壕」	蘇原持田町
6-6		写真「技能者養成所25mプール跡」	鶴沼三ツ池町
6-7		写真「誘導路トンネル」	鶴沼朝日町
6-8		写真「飛行第二連隊薬品庫跡二棟」	鶴沼朝日町
6-9		写真「陸軍航空整備学校御影奉安所跡」	鶴沼朝日町
6-10		写真「中国人殉難塔」	各務おがせ町
6-11		写真「地下壕」	鶴沼大安寺
6-12		写真「矢熊山の地下壕」	前渡車町
6-13		写真「防空壕」	前渡西町
6-14		写真「慰霊碑の上にある焼夷弾実弾」	神置町

5, 来館者の感想

★期間中(平成17年8月5日(金)~14日(日))の来場者数

(8月1日は休館)

5日 (金)	6日 (土)	7日 (日)	9日 (火)	10日 (水)	11日 (木)	12日 (金)	13日 (土)	14日 (日)	合計
159名	262名	177名	152名	159名	154名	143名	153名	184名	1,543名

戦時資料展の開催9日間に、たいへん多数のご来場を賜り、また、感想もいただきました。一部ではありますが、ここに紹介するとともに、今後の企画展の参考にさせていただきたいと思います。(括弧内は年齢層を示しています)

★在りし日の記憶・・・

- 終戦の時、5才でしたので、戦争の事は部分的にしか記憶がありませんが、今回ここで見せて頂き、平和の有難さを実感しています。私も父が昭和20年6月出征して、幼い弟と母で留守番をして淋しい思いをしました。農家でしたので、小学生の方たちが農作業を手伝って下さり、お昼に御飯と味噌汁をふるまったようです。六十八連隊の近くで育ちましたので、兵隊さんに家族の方たちが面会に来られたり、また、伯父さんの所へ母たちと面会に行きました。その時の伯父さんもサイパン島で戦死してしまい、男の兄弟が他になかった為、その後、家族は人生が狂ってしまいました。戦争は絶対いやです。(60代)
- 昭和20年7月9日に岐阜市で空襲にあいました。一晩で市内の大半が焼け野原と化した状況が記憶に残っています。あれから60年を経た現在も、地球のどこかで戦争が行われています。人間の業の深さを思い知ります。(70代)
- 少年の頃、目の前で繰り上げられた戦争の一部、空襲を体験。あの恐ろしさは今も忘れられない。二度と戦争はしてはならないと、強く思った。(70代)
- 父が戦争の時つれられて行きました。今もその時を思うと涙が出てきます。戦争の事を思うと涙が出ます。(80代)
- 戦争中の学生服を見て、小学5年生の頃に桑の木の皮むきに行きました。軍服になるという話でした。また教科書に墨を塗った事もよみがえってきました。あらためて現在の平和の有難さをつくづく感じました。一年に一度は思い出す事が大事ですね。(70代か、未記入)
- もう二度とあの悲惨な光景は見たくない気持ちと、60年後の戦後ということで、また思い出してみたい気持ちとが葛藤して、来てしまいました。やはり平和な日本はいいです。(70代)

- 学校時代後半から、満州事変・支那事変・大東亜戦争と非常時代を過ぎて、青春時代はありませんでした。当時「ほしがりません、勝つまでは」の言葉が流行語になっていました。どこの家庭でも若い男性は見えませんでした。女性と老人ばかりで心細い思いでした。平和という言葉の有難さ、身にしみて思う毎日です。何時までも平和が続きます様に毎日祈り、感謝の日暮らしをさせていただいております。(80代)

★未来へ・・・

- 毎回の様な展示をして、未来を託す子供たちに伝えていかなければいけないと思います。平和の維持、戦争は悲しい事ばかり何一つよい事はありません。(60代)
- これを見ていて、本などには自分から死のうと思っている人がいたけど、なんで?と思いました。でも、この本を読んでいたら、なんかわかるような気がしてきました。本当に人間はおかしくなっています。見るのとあまりにも残こくでした。それでも耐えた人はいました。もうこんな悲しみは二度とあってほしくないし、私もこんなことはしたくないです。(小学生)
- 子供の頃に授業で戦争の勉強をしたが、いざ自分の子供と一緒にこういった展示に来ても、説明が出来ない自分がとても嫌でした。今の時代、テレビで戦争を見ることが出来るが、それが今の子供たちはどう思い、見ているかが分からない。きっとゲーム感覚でしか思っていないでしょう。もっと子供たちに伝える機会があるともいいと思います。私たち大人にも、もっと伝えていただけると、とてもありがたく思います。(30代)
- 私が子供の頃、家の近くにエンタイゴウがあり、そこで時々遊んだ記憶がありますが、今年を境に防空壕が姿を消すという話を聞きました。今年は戦後60年ということもあり、子供の夏の自由研究に防空壕について一緒にしらべてみようと思い、今日この展示会を見学に来ました。小学2年生には少し早いかとも思いましたが、この機会に戦争について少しふれ、平和を考えていけるようになってもらえればと思っています。(30代)
- ビデオは当時の実体験された方々の貴重な証言で、戦争の悲惨さを生々しく感じる事ができました。数々の展示品は当時の人々が戦争の中でどう生活したか、生きた歴史として伝わってきました。更木村出身の軍人の、妻と子供へあてた遺書は胸を打ちました。(この人の遺言は家族への切なる思いで満ちていますが、家族を引き裂いた戦争の残酷さを思います)(60代)
- 戦争を知らない世代ですが、昔あったことは知っておくべきだと思い来ました。他の人の感想などを見ると、小中学生は戦争はよくない、してはいけないというものばかりで、何も知らずに書いているように思えます。このような資料展などでは、戦争の悲惨な所だけ出していますが、戦争を始めたのは日本で、どうして戦争がおこってしまったのか、それを教えて、日本以外のことも戦争をなくすためにどうすればいいのか、どうすれば止めることができるかを考えられるような人たちに育てることが大

戦時資料展に寄せられた感想の分析

知的な側面(11.8%)	情動的側面(56.6%)	提 言(18.4%)	展示について(13.2%)
今回の展示で戦争で各務原が被害にあったことを初めて知った。 2.6%	展示会を見て、平和の有難さを実感している。 7.9%	毎回このような展示をして、未来を託す子供たちに伝えていかねばならない。 9.2%	ビデオは当時の実体験された方々の貴重な証言で、戦争の悲惨さを生々しく感じた。 2.6%
戦争のことを知らなかったから、よく分かった。 6.6%	二度と戦争はしてはならないと強く思った。 17.1%	この資料展がいつでも見学できる建物を作って欲しい。 2.6%	とても良い展示会でした。来て良かった。 5.3%
今でも各務原市にこんなにも戦争のつめあとが残されていることを知った。 1.3%	少年の頃、空襲を体験。あの恐ろしさは今も忘れられない。 2.6%	終わりの時間を午後6時くらいまで延長すると勤めの人ももっと見学に来てもらえるのでは。 1.3%	語り部の会では、実際戦争体験をされた方のお話を聞いてよかったです。 1.3%
各務原の空襲が、焼夷弾によるものではないことは知っていたが、ここまでひどいとは知らなかった。 1.3%	戦争の時、父が連れて行かれた。戦争の事を思うと涙が出る。 1.3%	こういう資料がなかったら何も分らない。今の若い子にはもっと知らない。子供たちに知って欲しい。 1.3%	こんなにたくさんの資料を見るのは初めてで、驚いた。 4.0%
	子供が分からないなりに多少でも感じてくれたらいいなと思って連れて来た。 4.0%	こういう催しは継続的にやって欲しい。 4.0%	
	たくさんの絵手紙や鶴が折ってありたくさんの人が平和を願っているんだなあと思った。 1.3%		
	戦争の恐さを知った。 18.4%		
	平和が続くことを願う。 4.0%		

(感想を残していたいた方々から割り出した数値)

事だと思えます。ただ悪いことでやってはいけないと言っているだけでは、何も変わらないと思えます。(30代)

- 図書館に来て知りました。子供と一緒に来ました。悲惨なことに目をそむけがちですが、今までの歴史をありのままに伝える、分からないなりに子供が少しでも感じてくれたらいいなと思って連れてきました。戦争のあとは何も残りません。決して起こしてはいけないと思えます。(30代)
- 戦時資料展はとてもよい展示会でした。地味ですが、ひとつひとつに重みがあり、意味があり、心にひびくものを沢山感じさせてもらいました。今となつてはなつかしい思い出ですが、当時は今から思えば苦しい生活でした。でも、今の豊かな生活を知らなかったから、それが当たり前で不平や不満はもらさなかったと思えます。情報が一面的で、日本が勝つものと思込んでいたのに…。悲惨な結果となってしまいました。ひとりひとりが、この戦時下の姿をみて、本当に戦争をすることはよくない、人間のひきおこした愚かさを考え直してみなくてはいけないと痛感しました。21世紀を担う子どもたちこそ知ってもらい、戦争の認識を深めてもらいたいと思えます。(70代)
- 私の年代で戦争に興味がある人は少ないと思えます。私も偶然立ち寄っただけですが、戦争の恐ろしさが分かり、とても戦争がにくくなりました。人は失敗をおかす生き物ですが、絶対に二度と罪のない人々が死んでいく戦争だけは繰り返してはならないものだと思います。楽しいこと、自由なことを知らず亡くなっていった私と同年代の子は本当にかわいそうだと思います。今、日本は平和ですが、世界ではたくさんの戦争が起きていると聞いたことがあります。私より小さい子が戦っている国も少なくはないそうです。早く、世界から戦争がなくなり、世界中の人々が笑っていられる様になってほしいです。とてもリアルに感じることができ、いい経験でした。ありがとうございました。(中学生)
- 語り部の会では、実際戦争体験された方のお話が聞いて良かったです。机上で研究も大切ですが、生々しい実際のお話を聞き、戦争のおそろしさを感じることも必要だと思いました。戦争を体験していない私たちと体験された方々との間に「戦争は行ってはいけないものだ」と思う気持ちの強さの差は出てきてはいけないと考えています。本当に平和な世界になるためには、戦争を知らない私たちが知ろうとすることが必要です。(20代)
- 資料展を見学して平和の良さをつくづく感じました。今の平和が子供、孫の代まで続く事を願います。そして、この資料展がいつでも見学できる建物を作っていただきたいと思いました。(50代)

市川百十郎展

桜を植えた郷土の歌舞伎役者

市川百十郎展

1. 開催にあたって
2. 展示紹介
3. 図録
4. 展示資料一覧
5. 来館者の感想

桜を植えた郷土の歌舞伎役者

市川百十郎展

1. 開催にあたって

概要

蘇原大島出身の歌舞伎役者・市川百十郎の役者人生を資料で紹介するとともに、「百十郎桜」を守る人々の活動記録や「百十郎桜」をテーマにした市民の作品を展示します。

詳細

○主催 各務原市

○趣旨 毎春市民公園一帯で開催している「桜まつり」は、市内外から大勢の見物客が集まり、益々活況を呈しています。しかし、桜の名称の由来となる市川百十郎が、歌舞伎の花形役者であったことはあまり知られていません。

明治15年(1882)、蘇原大島で生まれた百十郎は、名古屋の中山喜楽に師事して芝居を覚え、大正期には活動写真と歌舞伎を組み合わせた連鎖劇をヒットさせ、東海一の歌舞伎役者になりました。地方興行に転じてからは、那加や蘇原の劇場に呼ばれて一座の芝居を披露したこともあります。引退後は郷里に帰って、青年団を相手に芝居を教え、地方文化の発展に寄与しました。

このような先人の業績を広く市民のみなさんに知っていただくことを目的として、この度「桜を植えた郷土の歌舞伎役者 市川百十郎展」を開催しました。歴史民俗資料館が所蔵する資料を中心にして、百十郎の役者人生を紹介するとともに、百十郎桜に関する作品もあわせて展示し、市民参加型の企画展にしました。

○開催期間 平成18年1月26日(木)～2月5日(日)
10時～16時(30日は休館)

○開催場所 各務原市立中央図書館3階 展示ホール

○展示内容

- ◆ 百十郎を生んだ地芝居が盛んな各務原
- ◆ 弟子入りから修行、そして花形役者の百十郎
- ◆ 全国を駆け巡る百十郎
- ◆ 青年歌舞伎を盛り立てた百十郎
- ◆ 舞台衣裳・小道具関係
- ◆ 板を植えた百十郎

資料点数 300点余

○市民の提供作品

- ◆ 板保全ボランティアの会の資料集・アルバム・百十郎板杖
- ◆ 百十郎板をテーマにした写真・絵画・川柳
- ◆ 村国座の青年歌舞伎・子供歌舞伎の役者絵

○その他

期間中講話やビデオ上映なども行いました。



開場式テープカット



開場式での展示コーナー説明



展示資料の説明をする講師



自分たちで作った展示物を見る小学生

市川百十郎 年表

和 暦	西 暦	年 齢	で き こ と
明治15年	1882	0	5月15日蘇原大島で誕生(本名加藤鶴作) 村国座でこけら落とし公演
明治30年	1897	15	名古屋の役者 中山善楽に弟子入り
明治36年	1903	21	淡路屋中山森枝の名で歌舞伎役者として活動
明治37年	1904	22	中村雀松一座の若手花形スターとして活躍
明治38年	1905	23	日露戦争に従軍 負傷し入院
明治39年	1906	24	3月29日除隊 4月6日敦賀で振り付け
明治40年	1907	25	市川八百蔵との親交を深め指導を受ける
明治42年	1909	27	日本映画がスタート 都市部では常設映画館が急増
大正元年	1912	30	立花屋市川百十郎となる
大正3年	1914	32	東海地方のトップスターと評される
大正6年	1917	35	市川暎玉と組んで興行
大正11年	1922	40	市川百十郎連銀劇の最盛期となる
大正12年	1923	41	蘇原大島消防団に火の見櫓を寄付
昭和3年	1928	46	全国新旧俳優見立番付で二大将(年取9500円)
昭和4年	1929	47	名古屋新聞連載小説「黒蜥蜴の夢」を劇化し、好評を博す
昭和5年	1930	48	3月29、30日 各務の村国座で公演
昭和6年	1931	49	新境川に板1,000本寄付 翌年200本を寄付
昭和13年	1938	56	山陰・九州の地方巡業
昭和19年	1944	62	一座を解散 7月16日蘇原大島に疎開 百十郎の板は戦争のため刳伐される
昭和20年	1945	63	青年団等の芝居を熱心に指導 衣裳等貸出
昭和36年	1961	79	蘇原大島の有志が板植樹記念碑を建立
昭和38年	1963	81	4町が合併して各務原市となる 市が板を植える
昭和44年	1969	86	2月22日 逝去
昭和63年	1988		市制25周年 市は「百十郎板」と命名
平成2年	1990		「百十郎板」が「日本さくら名所百選」に選ばれる

2, 展示紹介

① 百十郎を生んだ地芝居が盛んな各務原

歌舞伎と人形芝居（人形浄瑠璃）は相互に深い関係をもちながら、江戸時代の町人の芸能として発達してきました。この芸能が今日まで生き続けているのは、あらゆることの規制の多い封建社会にあって、町人のみでなく、農民に支持されたところが大きいといえます。春祭りには五穀豊穡祈願、秋祭りになれば豊年感謝の奉納芸能として演じられてきました。

後世になり、職業芸団によるものを買芝居（請芝居）、地元民自ら演ずるものを地芝居（地狂言）といい、両者を総称して村芝居といっています。

岐阜県は、全国的にも舞台建築が濃密に存在した地域の一つで、現存舞台数でも全国屈指の地域です。観衆の少なかった江戸時代後半から東濃・中濃地域を中心に、地芝居を演ずる農村舞台がまるで雨後の筍のように誕生してきました。



・市川百十郎が育った岐阜県内、各務原の農村舞台の紹介
・現存舞台、消滅舞台を地図で紹介



・市川百十郎も一度興行した村国座で、現在も行われている子供歌舞伎の紹介
・各務原市川島地区における村芝居の紹介

② 弟子入りから修行、そして花形役者の百十郎

◆修行時代の百十郎

15歳の加藤劔作少年は、歌舞伎役者になることを志し、名古屋の中山喜楽を頼ります。最初の芸名は「中山栗枝」。

喜楽一座の一員として、いろんな役どころをこなしながら芝居を覚え、やがて中村雀松一座の新劇盛華団に参加。

新境地を開くも、間もなく日露戦争に出征することとなり、活動の中断を余儀なくされたのです。



◆役者として独り立ちした百十郎

日露戦争から凱旋帰国した加藤劔作は、すぐに演劇の活動を再開します。芸名も「中山栗枝」から「中山御楽」に変わり、東海三県下の主な劇場から興行を申し込まれるようになります。

その後、同門で名代の役者になっていた市川八百蔵（市川中車）から「市川百十郎」という名前をもらい、名古屋の寿座や京橋座などを活動の拠点としたのです。

◆花形役者の道を歩み始めた百十郎

大正6年（1917）の市川眼玉との合同一座が「中京の花形役者市川百十郎」の名を広く知らしめていきました。日記からも興行各地で熱烈な歓迎を受けていることが分かります。

百十郎を更なるトップスターへ押し上げたのが、大正8年の連鎖劇の導入です。連鎖劇を広め、新たな歌舞伎の世界を見出した時期でした。大正7年は第一次世界大戦終結の年でもあり、歌舞伎の世界とはいえ、政府による統制があり、その中であっても、検閲に合格しながら、興行を続けている姿が史料から見られます。

大正末頃から、低迷きみであった百十郎一座に更なる転機が訪れます。昭和4年（1929）、名古屋新聞夕刊連載小説の劇化で大ヒットした「黒蜥蜴の夢」との出会い、名古屋新聞社との協力興行、そして昭和3年と昭和5年に発行された「俳優見立番付」が新たな百十郎人気を生みだしました。



「黒蜥蜴の夢」連載新聞と脚本

毎日のように興行日数が記録された開演日数帳からも、各地を飛びまわり、人気を博していたことが分かります。歌舞伎に打ち込んできた百十郎も50歳を目前にしていました。

③ 全国を駆け巡る百十郎

百十郎一座は、昭和10年（1935）9月5日まで名古屋を中心に興行しましたが、庶民の娯楽が歌舞伎などの観劇から映画の鑑賞に移行しつつある時流のためか、興行日数が昭和7年をピークに年々減少しました。

そこで、新たなる興行先を求めて、昭和10年9月6日の富山県富山市を皮切りに、北は東北の宮城から、南は九州の宮崎まで巡業に出ることとなります。

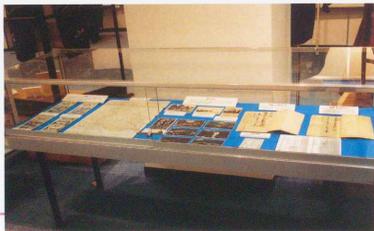
一座を率いての巡業の旅は、昭和19年6月22日まで続きました。この頃は第二次世界大戦の真っ只中であり、百十郎一座の九州への巡業は、B29の北九州地方の爆撃があった6月15日の1週間後のことでした。

百十郎日記には、一座の巡業先から宿・外題まで事細かに書かれており、百十郎の几帳面さが伝わってきます。その日記をもとに年を追って大まかな巡業地域が分かります。



・一座の興行地を地図におとし、地図、興行広告、日記とともに紹介

- ◆昭和8年～12年の巡業地域
中部・北陸・関東地方
- ◆昭和13年～17年の巡業地域
中部・中国・九州地方
- ◆昭和18年の巡業地域
東北・関東地方
- ◆昭和19年の巡業地域
中部・中国・九州地方



- ・数多く残る日記の紹介
- ・巡業に出かける時
買求めた地図の紹介
- ・巡業先で求めた絵はがきの紹介

④ 青年歌舞伎を盛り立てた百十郎



昭和19年（1944）7月16日、アメリカ軍による空襲が激しくなると、当時一座の座長であった百十郎（62歳）は、名古屋に構えていた一座を解散して、生まれ故郷である蘇原大島に疎開しました。

その時、芝居の衣裳・かつら・小道具・映写機・連鎖劇のフィルム・台本・脚本・日記・書籍など、4トントラック2台にいっぱいであったといわれます。

そして蘇原大島での生活が始まりました。

戦後、歌舞伎に対する情熱はさめやらず、一座を組むことはなかったが、終戦後5年間ほどは青年団などの村芝居の指導に熱心にあたりました。妻志ずると県内各地に出掛けていき、歌舞伎の指導・衣裳貸し・着付け等を行いました。

ときには、ウサギを売ったり、境川で魚釣りをしたりと、経済的にはあまり楽とはいえませんでした。好んで詠んだという狂俳には、「戦後」という題で、「いよいよ媾の天下なり」という作品が残されています。



百十郎が指導した歌舞伎の台本



青年歌舞伎や子供歌舞伎の役者姿を描いた作品

各務には村国座があり、昔から地芝居が盛んに行われていました。昭和33年頃は青年団歌舞伎から子供歌舞伎に変わっていく過渡期でした。地域の伝統を後世に伝えるため、各務に移り住んだ野村龍峯さんは、写真をもとに村国座で演じた青年や子供の歌舞伎の役者姿を巧みなタッチで描いています。

⑤ 舞台衣裳・小道具関係

昭和19年（1944）、百十郎が一座を解散して、蘇原大島に疎開してきたときに持ってきた芝居の衣裳・小道具、百十郎が使っていたと思われる多数の日用品が、当館に寄託されています。



写真の右：
先代萩乳人政岡役の
衣裳

旅回り一座の所有する衣裳類であるため、本歌舞伎の衣裳類に比較して、素材面でかなり見劣りをするのは否めません。また、一部の衣裳については、どの芝居にどの衣裳を使ったかまでわかるものがあり、観客受けする外題には、比較的質のよい衣裳を使用していたと推測されます。



写真の中央：おいらんの打掛とまない帯



尺八・虚無僧笠など小道具

⑥ 桜を植えた百十郎

百十郎は、役者として大活躍していた昭和6年（1931）に1,000本、また昭和7年に200本の桜を境川堤に植え、今日、各務原市民が誇りとする桜の名所・百十郎桜のもとをつくりました。



百十郎と桜の歴史



百十郎桜保全ボランティアの活動紹介

この桜は、戦時中に敵機の目印になるからとか、防空壕の柱にするとかで、ほとんど伐採されてしまいました。昭和38年、市はこの境川堤の桜を植え直し、昭和63年「百十郎桜」と命名しました。近年、春には「20万人の広場」として、人々を楽しませています。

百十郎桜をテーマにした市民の写真・絵画・川柳の展示、そしてこの桜並木を末永く保存しようと活動しているボランティアグループの紹介をしました。

百十郎の遺志が、今なお人々の心に生き続けていることの証と言えます。



百十郎桜について学んだ那加第二小学校児童の作品

期間中、来場者のみなさんに見て・聞いて・体験していただく場を設けました。

◆加藤美代子さんの話

夫慶一さんと共に来場され、「父 百十郎を語る」と題して、父百十郎の思い出を話されました。



加藤美代子さん



加藤慶一さん



勘亭流文字体験の風景

◆その他

- ・小野木昌さんの話
「青年歌舞伎で指導を受けた頃の百十郎と百十郎様」
- ・百十郎様保全ボランティア代表 中村昇さんの話
「百十郎様は今」
- ・ビデオコーナー
 - ・各務原義護学校劇
「さいたさいた百十郎様」
 - ・村国座の子供歌舞伎



勘亭流文字を指導する野村龍筆さん

3, 図録 (左端の数字 (2-1等) は、展示資料一覧の通番です。)



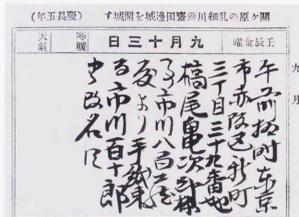
2-1. 写真 「若かりし日の百十郎」



2-10. 写真 「日露戦争に従軍した百十郎」

明治38年頃

百十郎の日記によれば、百十郎は明治38年(1905) 2月13日広島にて武器を受け取り、宇品港を出発。「奉天の会戦」で負傷するものの、明治39年3月31日には、無事凱旋帰国しています。



2-13. 懐中日記「市川百十郎襲名記事」

大正元年(1912) 9月13日

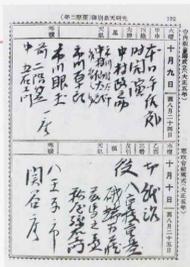
同じ中山喜楽門下の兄弟子の市川八藏(本名橋尾亀次郎)から「百」の字をもらい、「市川百十郎」と改名したことが分かる記録です。



2-19. 三寶日記

大正6年10月9日

市川眼玉一座とともに、東京八王子市関谷座で興行した記録です。



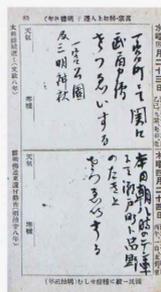
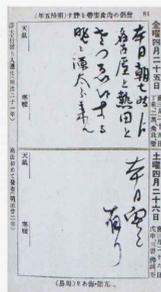
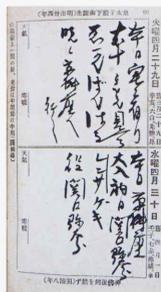
2-21. 興行広告(市川眼玉)

大正6年(1917)10月9~13日

市川市十郎から改名した市川眼玉一座が東京八王子市関谷座で5日間興行したときのものです(広告の日付は誤りか)。

市川眼玉は屋号を小紅屋といったようです。

百十郎は、10月から12月初めにかけて、この眼玉一座の「書き出し」(花形)として山梨・長野・福島・仙台・静岡などの巡業に参加して、芸をみがきました。



2-26. 三寶日記「連鎖劇導入の記事」

大正8年4月23~30日

大正8年4月30日、京樹座で興行した「関口武勇一代記」が百十郎の連鎖劇、初舞台となりました。4月23~25日はそのための「きつゑい」(撮影)をしたという初めての記録となります。23日には一宮町の一宮公園・三明神社、24日には瀬戸町と品野の滝、25日には名古屋と熱田を撮影しています。

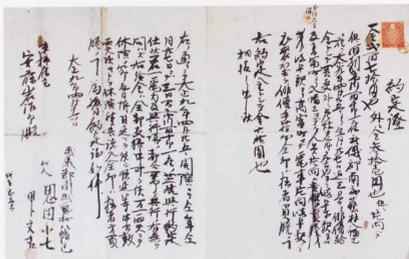
連鎖劇というのは、舞台では不可能な演技を連続映画(連続活劇)で演じながら、舞台演劇と組み合わせ、より活動的な芝居を行う形式のものであり、関西で発祥し、関東に普及しました。市川百十郎が連鎖劇を始めたのは、大正8年です。百十郎はそれまで行っていた歌舞伎に連鎖劇の手法を取り入れました。

野山を馬で駆けめぐり、時には舟から水中に飛び込み、舞台では決して出来ない芝居を映画で見せ、観客を取り込んでいきました。



2-31. 興行広告

この興行広告は「関口武勇伝」の各場面を絵で描いたものと、連鎖劇特有の実演・連鎖の場に分けられた割割、そして役名が書かれています。



2-32. 芝居興行約定証

武儀郡南武芸村
八幡区代人から
京樹座主人
大正9年4月16日

大正9年(1920)4月25日より、市川百十郎一座が八幡区(現、関市武芸川町)で興行すると約定した証書です。

名古屋の京樹座主が、契約主になっているところを見ると、当時百十郎一座は京樹座の興行部のもとに行動していたものと思われます。

この史料によれば、八幡区は俳優給金270円の他に金31円、名古屋よりの片道分の交通費として差し出していて、衣裳手荷物全部を負担すると申し出ています。

また、電力事情や天候の影響などにより、興行が実施されなくても、区が負担するものとして契約されていました。実際は、4月26日雨天中止となり、25・27・28日の3日間興行され、企画した八幡区の損害はなかったようです。



2-34. 両崎朝報「市川百十郎 大連鎖劇関口武勇伝を上演」

大正9年4月18日

4月20日より岡崎の宝来座にて、5日間興行することを知らせる記事です。大正8年4月から連鎖劇を導入した百十郎でしたが、すでに「連鎖劇界の重鎮人気男市川百十郎」「劇界すでに定評ある者にして立廻り等松次助に劣らぬ腕達者」などと評価されています。



2-37. 活動写真映画認可証

愛知県第74号
昭和2年3月

連鎖劇用活動写真映画の認可を愛知県に申請して、認められたものです。1巻600尺とあり、連鎖劇のフィルムの映写を認可したものです。

2-36. 第七草金盛実記説明書

昭和2年3月

連鎖劇用の活動写真部分と実演部分を書いた映画説明書です。昭和2年(1927)3月28日に愛知県警察部に検閲を受けています。

この話は、主人公金森大助が、白狐の助けにより悪人と泉守らを討ち滅ぼすという仇討ちです。





2-47. 興行広告「黒蛇の夢」

黒蛇の夢は名古屋新聞夕刊に昭和3年（1928）9月から連載されていた小説を百十郎が劇化したものです。

2-50. 興行広告「黒蛇の夢」

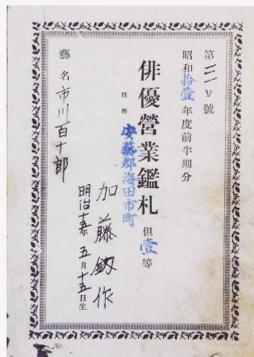
百十郎一座は連鎖劇特有の「まくなしにて御覧に入れ升」を一つの売りにしていました。すなわち、連続で芝居を見られることを特色にしたのです。



2-48. 写真「洋之助とお蘭」

昭和4年頃

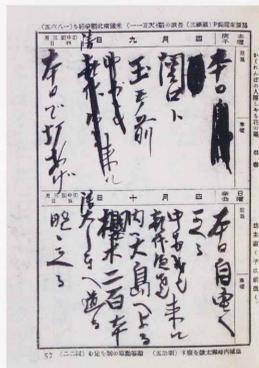
黒蛇の夢で、北御門洋之助を演じる百十郎（右）とお蘭を演じる扇雀（左）です。



3-26. 俳優営業鑑札（表・裏）

昭和11年4月1日

俳優は、営業鑑札の所持を義務づけられていました。これは、昭和11年度前半期分として、広島県から発行されたものです。



6-2. 日記「桜寄付」

昭和7年4月10日

百十郎は、昭和6年に桜の苗木1,000本をすでに寄付しており、昭和7年4月さらに、200本を寄付しています。

残念ながら、太平洋戦争の悪化にともない、立派になった桜は防空壕の柱や板となったり、空襲の標的となるということで、乱伐され、実際に百十郎が贈ったとされる桜は数十本しか残っていません。



5-1. 打掛うちかかけ

竹と笹の模様が特徴のこの衣装は、外題「伽羅先代萩」に登場する乳人の政岡の打掛です。この物語は、足利家の跡目相続を題材にした「時代物」と呼ばれるもので、女方の役である政岡の威と品とて表現している衣装でもあります。

5-2. 着物

「田宮坊太郎一代記」の忠僕百度平役を演じる百十郎の衣装です。



5-3. 写真「百度平役の百十郎」

「田宮坊太郎一代記」で5-2の衣装を着た百十郎です。



5-5. 羽織

外題「菅原伝授手習鑑」の松王丸役が着用した羽織です。



5-4. 着物

外題「菅原伝授手習鑑」の松王丸役が着用した着物です。

5-6. 写真「松王丸役の百十郎」

外題「菅原伝授手習鑑」で5-4、5-5の衣装を身に着けた百十郎の写真です。





5-7. 羽織

5-8. 写真「百十郎」

何の役柄を演じているかは未詳ですが、5-7の羽織を身に付け、役になりきる百十郎の写真です。



5-9. 羽織

外題「おなでほんまへきしんぞう仮名手本忠臣蔵」の大高源吾役の衣装です。

5-10. 袴

外題「おなでほんまへきしんぞう仮名手本忠臣蔵」で使用された袴です。



5-14. むなむね虚無僧笠



5-15. しゃちばち尺八



5-16. けいよう化粧用行李



5-17. せわ世話太夫差(かんざし)



5-18. さんど三度笠(清水次郎長)

4, 展示資料一覧

① 百十郎を生んだ地芝居が盛んな各務原

通番	年 月	資 料 名	備 考
1-1	写真	「洛中洛外園の舞台(「洛中洛外園」より)」	〔各務原市の農村舞台より 東京国立博物館蔵〕
1-2	写真	「江戸歌舞伎舞台「市村座」(「絵本栄家種」より)」	〔各務原市の農村舞台より 早稲田大学文学部蔵〕
1-3	写真	「金丸座(香川県琴平町)」	〔各務原市の農村舞台より〕
1-4	写真	「生島足島神社歌舞伎舞台(長野県上田市)」	〔各務原市の農村舞台より〕
1-5	写真	「白雲座(下呂市)」	〔各務原市の農村舞台より〕
1-6	写真	「明治座(中津川市)」	〔各務原市の農村舞台より〕
1-7	写真	「市島の舞台(郡上市)」	〔各務原市の農村舞台より〕
1-8	写真	「赤坂神社拝殿(鶴沼東町)」	
1-9	写真	「二ノ宮神社舞台(鶴沼西町)」	
1-10	写真	「皆楽座(鶴沼羽場町)」	
1-11	写真	「村国座(各務おがせ町)」	
1-12	写真	「天神神社拝殿(上中屋町)」	
1-13	写真	「春日神社拝殿(上戸町)」	
1-14	昭和初期	写真 「那加劇場の演員の観客」	今尾定男氏所蔵
1-15	写真	「村国座の子供歌舞伎」 5点	
1-16	昭和20年頃	写真 「川島小網芝居」(大1点、小15点)	

② 弟子入りから修行、そして花形役者の百十郎

○修行時代の百十郎

通番	年 月	資 料 名	備 考
2-1	年月未詳	写真 「若かりし日の百十郎」	
2-2	明治17年3月	末広座上演簡付(師匠・中山喜楽ほかの上演番付)	御楽座図書館蔵
2-3	写真	「若宮八幡宮境内にあった末広座」	〔名古屋商業案内より〕
2-4	明治27年1月	大日本俳優大見立(市川八百蔵・中山喜楽ほか)	
2-5	明治42年ころ	地図 名古屋市中心部	〔歴史写真集 名古屋再発見より〕
2-6	明治36年日誌	日記(はじめて日記をつけた記録)	
2-7	明治37年8月	日記(新演劇盛華団一座へ小生及び中村雀松一座合併)	
2-8	明治32年6月吉日	勢力第五部の一代記 「中山栄枝」	
2-9	昭和22年2月17日～3月31日	懐中日記(明治38年 日露戦争の軍隊生活)	
2-10	年月未詳	写真 「日露戦争に従軍した百十郎」	

○役者として立ち上った百十郎

通番	年 月	資 料 名	備 考
2-11	明治41～大正3年	正月劇シリーズ (佐野町より) M41年 飛騨山形屋多巻 M45年 大観行話巻 T3年 伊勢久原町巻	
2-12	明治41年1月	脚本 「義経千本坂、勳進帳、釜ヶ淵」「高山町 喜多座にて」	
2-13	大正元年9月13日	懐中日記 「市川百十郎の襲名記事」	
2-14	大正4年1月	懐中日記 「名古屋寿座ロングラン興行」	
2-15	大正4年2月4日	脚本 民谷の生立 「立花家 寿座」	
2-16	大正4年2月8日	脚本 やんちゃの虎吉 「立花家 寿座」	
2-17	大正4年3月1日	脚本 俠客春雨草 「立花家 寿座」	
2-18	大正4年3月17日	脚本 千代田礎登福原 「立花家 市川百十郎 寿座」	

○花形役者の道を歩み始めた百十郎

通番	年 月	資 料 名	備 考
2-19	大正6年10月9日	三寶日記(市川百十郎と東京八王子市 関谷座 公演)	
2-20	大正6年11月15日	三寶日記(市川眼玉との旅まわりが分かる記事)	
2-21	(大正6年)10月6日	興行広告 市川眼玉(市川百十郎と東京八王子市 関谷座 公演)	
2-22	大正6年10月9日	脚本 心中天網唄(河庄の巻) 「小紅巻市川眼玉一座 市川百十郎 東京府八王子市関谷座に於いて」	
2-23	大正6年10月12日	脚本 扇屋熊谷 「第二のかわり」 市川十郎改 市川眼玉一座 市川百十郎一座	
2-24	大正7年8月9日	懐中日記(百十郎一座を率いて 独立記事)	
2-25	大正7年8月	懐中日記 併復手金部(日記の補遺より)	
2-26	大正8年4月23～30日	三寶日記(連続劇の導入の記事)	
2-27	年月未詳	関口武勇伝(大道具舞台セット) 「立花家」	
2-28	年月未詳	題名関口武勇伝 全通し	
2-29	年月未詳	散討筑後囃関口弥太郎一代記 「立花家 市川百十郎一座」	
2-30	大正9年7月	脚本 関口武勇伝 竹本三国大夫	
2-31	年月未詳	興行広告 関口武勇伝	
2-32	大正9年4月16日	芝居興行約定証(25日より興行 南武芸村字八幡から京橋座主催)	
2-33	大正8年5月	開演日数帳(大正9年4月25日前後の興行場所・外題が分かる)	
2-34	大正9年4月18日	新聞 岡崎朝報(「市川百十郎 大連演劇関口武勇伝を上演」)	
2-35	大正10年10月5日	新聞 信濃時事新聞(「大歌舞伎 実作大連劇 市川百十郎大谷友十郎大一座来演」)	
2-36	昭和2年3月	誉七草金盛美記説明書(愛知県検閲)	
2-37	昭和2年3月	愛知県第74号活動写真映画認可証	
2-38	年月未詳	外題関係 観音舟治一代記(連続劇 梗概)(内務省検閲済 昭和3年4月20日)	
2-39	昭和3年3月～昭和4年1月	剣技余情黒蜥蜴の夢(名古屋新聞夕刊連載小説 切り抜き)	
2-40	昭和4年2月15日	新聞 名古屋新聞岐阜収録(「黒蜥蜴の夢」本日より那加劇場公演 市川百十郎一座)	
2-41	昭和4年2月26日	新聞 名古屋新聞岐阜収録(「黒蜥蜴の夢」本日限り 竹鼻八千代劇場公演 市川百十郎一座)	
2-42	昭和4年3月6日	新聞 名古屋新聞(尾張版)(「好評の本土劇 あすから那加劇場」)	
2-43	昭和4年3月19日	新聞 名古屋新聞(静岡県行録)(「本紙連載小説 黒蜥蜴の夢 愈よ廿一日から浜松で上演!!!」)	

通番	年 月	資 料 名	備 考
2-44	昭和4年	清帳(黒蜥蜴の夢の興行状況がわかる記録)	
2-45	年月未詳	脚本(黒蜥蜴の夢 [名古屋新聞連載小説劇] (愛知県経済 昭和4年5月24日))	
2-46	年月未詳	黒蜥蜴の夢招待券 市川百十郎一座(名古屋新聞社)	
2-47	年月未詳	名古屋新聞連載小説劇興行広告(離型)(黒蜥蜴の夢・脅かす対面)	
2-48	年月未詳	写真(黒蜥蜴の夢での北御門洋之助役の百十郎とお鷹役の扇雀)	
2-49	年月未詳	写真(黒蜥蜴の夢での播磨守)	
2-50	年月未詳	興行広告 立花家 市川百十郎一座「黒蜥蜴夢お鷹と洋之助」	
2-51	年月未詳	興行広告(百十郎の代表的な芝居の場面が描かれている)	
2-52	昭和3年1月	大日本俳優見立大番付(二大将 9500円)	
2-53	昭和5年8月	全国新旧俳優見立大番付(市川百十郎 前座 9000円)	
2-54	年月未詳	写真(田宮坊太郎一代記での柳生飛騨守役の百十郎)	
2-55	昭和3年8月	芝居興行約定証(知多上野間、大崎仁兵衛から百十郎宛)	
2-56	昭和3年8月23日	芝居興行約定証(百十郎から田平沢、松田照夫宛)	
2-57	昭和3年8月	開演日数帳(昭和3年8月前後の興行場所・外題が分かる記録)	
2-58	(昭和3年か) 4月10日	那加劇場連続劇興行広告	
2-59	(昭和7年か) 12月16日	八千代劇場連続劇興行広告(竹ヶ鼻町)	
2-60	昭和5年3月	開演日数帳(村国座にて興行した唯一の記録)	

③ 全国を駆け巡る百十郎

通番	年 月	資 料 名	備 考
3-1	昭和8年1月	懐中日記	
3-2	昭和9年1月	懐中日記	
3-3	昭和10年1月	懐中日記(2月4日～6日那加劇場・3月20日～24日蘇原劇場)	
3-4	昭和11年1月	懐中日記	
3-5	昭和12年1月	三寶日記(2月11日～14日那加歌舞伎座・3月21日富山大黒座)	
3-6	昭和13年1月	懐中日記(2月19日～20日那加歌舞伎座・12月5日福岡大正座)	
3-7	昭和14年1月	懐中日記	
3-8	昭和15年1月	仏教日記	
3-9	昭和16年1月	懐中日記(9月20日那加歌舞伎座・21日蘇原劇場・30日蘇原劇場分)	
3-10	昭和17年1月	懐中日記	
3-11	昭和18年1月	懐中日記	
3-12	昭和19年1月	Diary	
3-13		萬寛帳(昭和19年6月23日前後のこと)	
3-14	昭和14年	絵はがき 別府温泉(昭和14年1月1日より別府市松原町にて開演 10日返)	
3-15	昭和14年	絵はがき 日向青島(昭和14年1月16日の日付印あり)	
3-16	昭和14年	絵はがき 名古屋城(昭和14年10月2日の日付印あり)	

通番	年 月	資 料 名	備 考
3-17	昭和16年	絵はがき 広島城(昭和16年6月30日の日付印あり)	
3-18	昭和11年	静岡県全図	
3-19	昭和12年	山口県地図	
3-20	昭和13年	福岡県地図	
3-21	昭和14年1月13日	宮崎県地図 [九州巡業中 延岡駅にて求む]	
3-22	昭和15年	島根県地図	
3-23	昭和16年	兵庫県全図 [2月14日明石市にて求む]	
3-24	昭和12年	富山県大黒座連続劇興行広告	
3-25	昭和13年	福岡県大正座連続劇興行広告	
3-26	昭和11年	俳優営業鑑札(広島)	
3-27	昭和14年	警七草金森実記説明書(内務省検閲)	
3-28	昭和14年12月	忠臣義臣部之礎(内務省・文部省検閲)	

④ 青年歌舞伎を盛り立てた百十郎

通番	年 月	資 料 名	備 考
4-1		写真 「凛々しい姿で隠居生活を送る市川百十郎」	
4-2	昭和21年1月10日	写真 「指導を受けた横山忠雄さんの役者姿」 2枚	横山忠雄氏所蔵
4-3		脚本 播磨助六 2点	
4-4	昭和25年10月	脚本 阿波の鳴門下之巻	
4-5	昭和30年10月	脚本 大石と立花(笠松町米野青年団)	
4-6	昭和33年	脚本 小町奴長吉(第3支部青年団)	
4-7	昭和35年	脚本 森の石松	
4-8	昭和36年度	脚本 赤い雫羽織(藤井本郷支部青年団)	
4-9	年月未詳	脚本 鬼女と緋(神保館女子部詩舞劇)	
4-10	年月未詳	脚本 清水の名物婆さん(劇団ポーツミス)	
4-11	年月未詳	脚本 次郎峯山子(本郷青年団)	
4-12	年月未詳	脚本 泣き笑い	
4-13	年月未詳	脚本 水車小屋	
4-14	年月未詳	脚本 山小屋(東海合織紡績演劇部)	
4-15	年月未詳	脚本 派手姿藤の逢引	
4-16	年月未詳	脚本 吉良の仁吉	
4-17	年月未詳	脚本 忠臣蔵七段目	
4-18	年月未詳	脚本 絵本太吉記 2点	
4-19	昭和20年～	昭和20年以降の日記 8点	
4-20		買物寛々帳 2点	
4-21	昭和20年10月24日以降	横山忠雄日記	横山忠雄氏所蔵

通番	年 月	資 料 名	備 考
4-22	昭和43年8月10日	中日新聞夕刊 紙つぶて 「ある米寿」	
4-23	昭和44年1月1日	地方版 大瀬戸 「市川百十郎翁夫人は…衣裳着付の加藤志ずみさん」	
4-24	昭和44年3月1日	中日新聞夕刊 紙つぶて「百十郎桜」	
4-25		写真 「山崎橋から上流の高出橋をながめる」	
4-26		写真 「蘇原大島の光明山淨念寺」	
4-27		写真 「蘇原大島の福稲神社」	
4-28		色紙 「83歳 長寿祝い 鳥倉千代子 より」	
4-29		色紙 「米寿の祝い 寄せ書き」	
4-30		役者絵 「地域の伝統を後世に伝える！」 26点	野村隆峯氏蔵

⑥ 衣裳・小道具関係

通番	年 月	資 料 名	備 考
5-1	年月未詳	打掛(伽羅先代萩 乳人政岡)	
5-2	年月未詳	着物(田宮坊太郎一代記 百度平)	
5-3	年月未詳	写真 「田宮坊太郎一代記 百度平役の市川百十郎」	
5-4	年月未詳	着物(菅原伝授手習鑑 松王丸)	
5-5	年月未詳	羽織(菅原伝授手習鑑 松王丸)	
5-6	年月未詳	写真 「菅原伝授手習鑑 松王丸役の市川百十郎」	
5-7	年月未詳	羽織	
5-8	年月未詳	写真 「市川百十郎」	
5-9	年月未詳	羽織(仮名手本忠臣蔵 大高源吾)	
5-10	年月未詳	袴(仮名手本忠臣蔵)	
5-11	年月未詳	羽織	
5-12	年月未詳	打掛(おいらん)	
5-13	年月未詳	まないた帯(おいらん)	
5-14	年月未詳	虚無僧笠	
5-15	年月未詳	尺八	
5-16	年月未詳	化粧用行李	
5-17	年月未詳	世話太夫差(かんざし)	
5-18	年月未詳	三度笠(清水次郎長)	
5-19	年月未詳	帽子	
5-20	年月未詳	キセル	
5-21	年月未詳	矢立	
5-22	年月未詳	石鉾(グンキ銘)	
5-23	年月未詳	万能ナイフ(磁石、缶切付き)	
5-24	年月未詳	腕時計(LAUREL)	

通番	年 月	資 料 名	備 考
5-25	年月未詳	腕時計(CITIZEN)	
5-26	年月未詳	髷刺(練習用)	

⑥ 桜を植えた百十郎

通番	年 月	資 料 名	備 考
6-1	大正12年10月16日	写真 「大島消防団 出揃記念(火のみやぐら寄付のお礼)」	
6-2	昭和7年4月10日	日記 「桜寄付」	
6-3	昭和36年9月24日	日記 「桜記念碑完成」	
6-4	昭和36年	写真 「桜記念碑完成の日」	
6-5	昭和36年	境川と百十郎桜記念碑の碑文	
6-6	昭和38年6月6日	岐阜日日新聞 「除に一老人の“夢” 復活する名所 境川堤のサクラ」	
6-7	平成2年3月1日	広報紙かかみがはら 「さくら名所100選に」	
6-8		写真 「境川と百十郎桜記念碑除幕式」	
6-9	昭和34年	写真 「S34年の境川」	
6-10	昭和60年	写真 「S60年の境川」	
6-11		体験談 「理不尽な軍部の要求」	〔各務原市民の戦時体験〕より
6-12		体験談 「市川百十郎と桜並木」	〔各務原市民の戦時体験〕より
6-13		百十郎桜保全ボランティアの発足した理由	
6-14		百十郎桜保全ボランティアとは何をする会	
6-15		百十郎桜分布総本数図	
6-16		枯死木伐採、植栽後の百十郎桜本数一覧	
6-17		樹木診断の手順	
6-18		木のミニ診断カルテ	
6-19	平成17年度～	ノート 百十郎桜並木チェック記	百十郎桜保全ボランティア所蔵
6-20		桜保全ボランティアの会の資料集(ファイル)	百十郎桜保全ボランティア所蔵
6-21		桜保全ボランティアの会のアルバム 3冊	百十郎桜保全ボランティア所蔵
6-22		冊子 百十郎桜分布図	百十郎桜保全ボランティア所蔵
6-23		百十郎桜杖	百十郎桜保全ボランティア所蔵
6-24	平成17年2月	百十郎桜 杖の模印	
6-25	平成17年9月15日	岐阜新聞 「新境川堤の百十郎桜で杖100本」	
6-26		市文芸祭審査員作品 明と暗のエスキス(詩)	
6-27		市民の作品 写真8点 絵画20点 川柳42点	
6-28		図書 「さいたさいた百十郎桜」	赤塚憲久氏蔵
6-29		ビデオ 村国産子供歌唄伎 15年度17年度 8本	木曾川学研究所
6-30		ビデオ 各務原農産学校 劇「さいたさいた百十郎桜」	各務原農産学校所蔵
6-31		学習成果物 那加第二小学校4年総合的な学習「百十郎桜について学んだよ」	那加第二小学校製作

5、来館者の感想

★期間中(1月26日(木)～2月5日(日))の来場者数

(30日(月)は休館)

26日 (木)	27日 (金)	28日 (土)	29日 (日)	31日 (火)	1日 (水)	2日 (木)	3日 (金)	4日 (土)	5日 (日)	合計
120名	159名	208名	238名	134名	101名	110名	143名	125名	121名	1,459名

市川百十郎展の開催10日間に、たいへん多数のご来場を賜り、また、感想もいただきました。一部ではありますが、ここに紹介するとともに、今後の企画展の参考にさせていただきます。 (括弧内は年齢層を示しています)

★過ぎし日を思い出し・・・

- 市川百十郎が名古屋椿座公演に来る度に母に連れられて見に行きました。私、小学生の頃です。数回あります。(80代以上)
- 百十郎史の詳しい事を知ることが出来て、良かったと思います。殊に昭和3年、5年の番付表は現代俳優の先代、先々代でしょうか。なつかしい名前を見ることができました。歌舞伎ファンとして嬉しく思います。(70代)
- 幼い頃の田舎芝居、映画等、思い出しました。(70代)
- 昔なつかしい歌舞伎座の名が出ていて、懐い昔を思い出した。(60代)
- 小学校の時、父が百十郎ファンで金を寄付したので、私は10歳くらいでしたが毎日見に行きました。大ファンです。(90代)
- 懐かしく胸いっぱいです。子供の頃、母が私を乳母車に乗せたり、手をつないで歩いて、那加の町へ行きました。母が、この堤防の桜の木は大島のお芝居の役者さんが植えて下さったんや、この木が大きくなったら綺麗やろうな…と、ニコニコと話してくれましたが、大きな桜木になるのを待たずに亡くなりました。戦争中には所々切り倒され、淋しい思いをしました。今では、日本の桜百景の本に掲載され、見事な美しい堤防となり、私は息子のお陰で毎年花見を楽しむことができ、幸福者です。まだまだ思い出は多くありますが、書ききれません。(80代以上)
- 去年村国座にて子供歌舞伎を観る機会を得ました。青年歌舞伎より受け継がれて伝統として残されていること、その原点に百十郎歌舞伎が今に息づいている事を知り、地域に住む一人として誇りに思っています。貴重なかけがえのない品々が地下取蔵庫に眠っていたのを整理修復されて、ここに展示されたことを誠に意義あるものと思います。とすれば、「百十郎桜」のみが全国を一人歩きしている感でしたが、これを機会に歌舞伎役者としての百十郎についてもっと広く知らせていく必要を感じました。

新境川堤に1,000本植えられた昭和6年は、私がこの世に生をうけた年であり、そのことも感無量の思いです。なお今後の保管については十分時間をかけ計画してください。(70代)

- 子どもの頃、兄たちが一生懸命習い、大島で歌舞伎をりしりく演じた姿を思い出し、懐かしくゆっくり見させてもらいました。この機会に百十郎さんについて伝えて下さったことに感謝し、素晴らしい桜が永久に咲き誇ることを祈ります。(70代)

★郷土の歴史にふれて・・・

- 各務原市に来て今年で9年目ですが、毎年4月の境川の桜の花を楽しみにしています。今回、展示会にきて、境川の桜が何故「百十郎桜」と言われるのか良く分かりました。また、桜を通じて平和を祈念した百十郎の志が大変心に残りました。今年の桜は今までと違った視点で見れるものと思います。(40代)
- 百十郎が大芝居の役者であったことを知り、郷土出身者として敬服します。また岐阜県が全国に名だたる芝居の伝承が多いところと聞き、百十郎を輩出した歴史や、同氏の功績の大きさに感銘しています。各務原市はもっと教育宣伝に力を入れるべきです。桜も皆で大事にしたいものです。(70代)
- 百十郎について今まで知りたかったことが、このような形で展示されたことに感動しました。よく衣裳など残っていて、当時の唯一の文化、娯楽であったことがよく分かりました。地歌舞伎への指導があつてこそ、今の村国座やその他へ受け継がれたのだと改めて知りました。ビデオは言語が不明瞭であるため、字幕がほしかった。桜まつりのときも何らかの形で皆さんに知らせる事ができればよいのではないのでしょうか。(70代)
- 新境川の桜は、歌舞伎役者の市川百十郎さんが植えたのは知っていましたが、市川百十郎さんの人生や歌舞伎の面白さを知ることができて、嬉しく思います。総合学習として、那加第二小学校の生徒さんたちが身近な有名な人物、市川百十郎を取り上げられたのが、印象に残りました。これからも私たち地域に伝えていってください。本日はありがとうございました。(20代)
- わたしたちが学校で調べたB紙をはってくれてありがとうございました。それにしても、1,132本も桜を植えた市川百十郎さん(加藤劔作さん)はすごい! これからも桜を守っていきなさいです! (ごみも拾ってあげたい) きれいな桜を見せてね。(小学生)
- 資料の数が多く、大変充実しているのに驚きました。ついつい時間のたつのを忘れ、見入ってしまいました。資料から印象に残ったところを現地に行つて確かめたいと思います。幸い地元の人がかいて、晩年の百十郎さんの話も聞けました。来て良かったと感謝しています。(年代未記入)
- 「歌舞伎文字」は知っていましたが、岐阜のしかもこの近くで、こんな素晴らしい方が活躍されていたとは、驚きであり、深い感動を覚え、本当に素晴らしい機会が持てました。これから何か学んでみたいという気持ちになりました。「百十郎桜」のこと、知

市川百十郎展に寄せられた感想の分析

知的な側面(19.7%)	情的な側面(50.2%)	提 言(20.6%)	展示について(9.4%)
百十郎の役者人生について初めて知った。 9.4%	百十郎のあたたい思いに対して感動した。百十郎に感謝したい。 12.9%	百十郎のことを紹介できる常設展示場があるとうまい。百十郎を顕彰してほしい。 4.3%	よく分かった。 6.0%
百十郎のことを少しは知っていたが、あらためて知ることが出来た。懐かしく思った。 7.3%	百十郎の行為は尊敬に値する。郷土の誇りに思う。 6.4%	大切な百十郎資料の保存を引き続き願いたい。 2.1%	よく資料を集められた。系統的、専門的な集大成である。 0.9%
百十郎様のいわれを初めて知った。 1.3%	百十郎の評しいことを知ることができて良かった。 8.1%	この展示について本にしてほしい。 0.9%	心のこもった展示内容であった。 0.4%
各務原が地歌舞伎の盛んな土地柄であることを初めて知った。 1.3%	楽しく参観できた。興味深く見ることができた。 4.3%	こんな企画が多くなることを望む。(また開催してほしい) 3.9%	桜の写真、川柳、ボランティア活動の展示が良かった。 0.4%
蘭亭流文字の書き方が参考になった。楽しく学べた。 0.4%	各務原は素晴らしいところだ。もっと知りたかった。 3.0%	市を挙げて宣伝してほしい。 2.1%	養護学校の生徒さんによる劇のビデオは素晴らしい。 0.4%
	文字体験ができて良かった。感動した。もっと習いたい。 7.3%	若い人に文化を大事にしてもらいたい。 1.3%	歌舞伎のビデオの音声が聞きづらかった。 0.9%
	桜の季節が楽しみになった。桜を自慢したい。安らきを感じる。 8.1%	歴史を大切にす町にしたい。いつまでも伝統文化を守ってほしい。 1.3%	放水路工事に携わった朝倉人のことも扱ってよい。 0.4%
		川を美しくしていきたい。桜を大切にしたい。 4.3%	
		桜の枝を守るため、新境川堤防道路の自動車通行を禁止したい。 0.4%	

(感想を残していただいた方々から割り出した数値)

らないで毎年老妻と二人で花見を楽しんできましたが、今年から、この方を想い出しながらじっくり桜を見たいなと思いました。主催の方々にお礼申し上げます。(年代未記入)

- すばらしい展覧会で、観客も大変多く、内容も盛りたくさんで感心しました。2月2日に来てみて、あまりにも内容豊富な展示会だったので、今月4日までに4回見に来ました。百十郎さんの一生のことだけでなく、桜のこと、農村歌舞伎のこと、保全ボランティア、作品展まで、あまりにも多く、4回来てはまだ解説を読みきれない程の内容で驚きました。事前に準備されたスタッフ、資料館の方々に深く感謝します。百十郎様の展示会は、今後何回も展示されることを、お願いいたします。展示品の中に、昭和14年1月に興行先で買われた別府温泉の絵葉書6枚がありますが、ひよっとした別府市にも残っていない古い絵葉書かもしれません。別府の方がほしがかる資料かもしれないので、今日、別府市観光係に紹介しておきました。(70代)
- 境川の堤の桜を各務原に住む私たちの誇りとして、これからも守っていかねばと思いました。また、中村先生の話の中の「桜は私たち人間より長生きですから…」という言葉が心に残りました。ありがとうございました。(40代)
- 市の文化のことは、ずっと在住していても知らないことが多いので、こういう展示はもっとした方がいいと思う。小学校や中学校の授業の中でも、もっと地域に根付いたことを教えてほしいと思う。展示方法は、心のこもったもので良かったです。(30代)
- 昭和36年に那加に移住しました。それから2年くらいにち桜を知りました。堤防を散歩しながら並木が病虫害によって荒れているのを知り、桜ボランティアに平成13年より入っています。(年代未記入)
- 百十郎様の土手、川などにゴミなどがあり、大変汚れている。もっとみんなが美しく心がけると良いと思う。(70代)
- 百十郎様のご家族(加藤様)のお話を聞かせていただき、そして展示品の素晴らしいことには驚きました。もっと大きな会場で多くの市民の方々に見ていただく様にと思いました。本当に素晴らしいです。ありがとうございました。(50代)
- 今日は参加させていただき、ありがとうございました。「歌舞伎文字」ということで、あまり分からずに来ましたが、先生に自分の名前を書いていただき感激です。体験してみても書道というよりデザイン感覚でとらえた方がいいのかなと思いました。とてもおもしろく感じましたが、うまくは書けないですね。(年代未記入)
- この度の開催、地元にて良かったなあと感じました。私自身、よく歌舞伎を観に行っていますが、昔の、地元の出身の方の活躍を今回よく知ることができました。村国座が改築されたら、今、現在の方を招いての歌舞伎を観てみたいです。(30代)
- 珍しい物をたくさん見せていただきました。特に歌舞伎絵は近所の方の名前など見つけ、話かはずりました。蘭亭流の文字体験も楽しくさせていただきました。(40代)

企画展協力者一覧

戦時資料展 (敬称略)

●協力者	浅野醇子 今尾良三 奥村昭成 棚橋充子 山下智恵子 福岡西小学校 北洞自治会 手力雄神社	浅野由郎 岩井弘光 田中美智雄 所 稔 吉田久枝 福岡東小学校 岐阜市平和資料室 桃太郎神社	今尾良彦 大岩節子 田中 稔 中村新三 鶴沼第一小学校 岐阜新聞社 八百津町立和知小学校
------	---	---	--

●イラスト協力者 鷺見多津子

●語り部	足立秀成 岡部英雄 小野木昌 亀田芳包 坂井正則 古川嘉子 横山康彦	石井正男 奥村昭成 可児唯二 苅谷綾子 長谷川恭子 森瑠美子 朗読の会「こたま」	岩井弘光 小野木浩二 亀田宏美 小島静江 広井英明 安田啓子
------	--	--	---

市川百十郎展 (敬称略)

●協力者	河田 忠 横山忠雄 各務原養護学校 御園座図書館	野村龍峯 那加第二小学校 百十郎校保全ボランティア	柳 勇
●話・体験	小野木昌 中村 昇	加藤慶一 野村龍峯	加藤美代子 安田徳子

編集後記

このたび、後世への記録保存のため、企画展図録を発行することになりました。まず、「戦時資料展」は、アジア太平洋戦争終結後60年の節目にあたり、各務原市の「平和の日」の趣旨を受け、この戦争が市民生活に大きな惨禍を及ぼしたこと、その中から戦後の復興に立ち上がった苦難の歴史をふり返り、二度と悲惨な戦争を繰り返すことがないようにとの願いを込めた企画としました。

一方、「百十郎展」では、郷土出身で東海一の花形歌舞伎役者であり、しかも郷土に桜を植えた歌舞伎役者市川百十郎の役者人生を紹介し、先人の業績を広く市民の皆さんに知っていただくことを目的として開催しました。

今後とも、市内の歴史や民俗を紹介し、市民の文化再発見のため企画展を開催していきますので、皆様のご協力をお願いします。

最後になりましたが、これらの企画展にご指導・ご協力を賜りました多くの協力者の方々にお礼を申し上げます。

平成18年12月

各務原市歴史民俗資料館
館長 大森 利博

各務原市資料調査報告書 第30号
～平成17年度 企画展図録～

平成18年12月発行

編集 各務原市歴史民俗資料館
〒501-6022 岐阜県各務原市川島松倉町1951番地4
TEL (0586) 83-2931

発行 各務原市
〒504-8555 岐阜県各務原市那加桜町1丁目69番地
TEL (058) 383-1111 (代)

印刷 那加印刷株式会社

